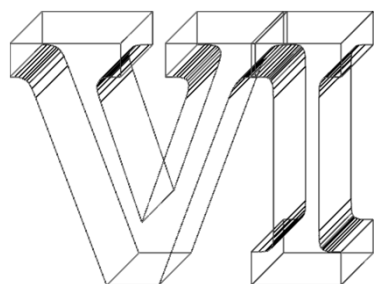


HOKUSHU PERGO Floor Architectural Guide



2018/7/1 作成

Vol.6



■日本総輸入販売元

HOKUSHU

株式会社 北洲 建設・資材事業部 市場開発部

東京営業所 〒140-0013 東京都品川区南大井6丁目16-4
Tel 03-6404-6750

大阪営業所 〒532-0011 大阪府大阪市淀川区西中島3丁目11-26
Tel 06-6195-2557

札幌営業所 〒001-0030 北海道札幌市北区北30条西7丁目2-27
Tel 011-738-0114

福岡営業所 〒812-0016 福岡県福岡市博多区博多駅南3丁目21-18
Tel 092-433-8555

東北営業所 〒983-0034 宮城県仙台市宮城野区扇町5丁目3-20
Tel 022-237-5723

<http://www.hokushu.net>

import@hokushu.net

本書の内容において、無断で複写・転用することを固く禁止致します。

北洲 ペルゴフロア アーキテクチャル & メンテナンスガイド

本書は弊社製品『ペルゴフロア』の採用時より、
施工・引渡し後のメンテナンスに至るまでの方法・注意点に言及したガイドブックです。
この内容を遵守戴き、下記の注意事項をよく読んで正しく施工していただきますようお願い申し上げます。

目 次

ご使用の前に!! 施工時の注意点!!

Phase1 ■デザイン・仕様決定時

Phase2 ■事前チェック

- ① 下地のチェック
- ② 商品到着時
- ③ 開梱時・割付時

Phase3 ■施工方法

- Step 1 施工準備
- Step 2 フロアの割付について
- Step 3-1 下地シートの敷き込み①
- Step 3-2 下地シートの敷き込み②（注意点）
- Step 4 スペーサーの取付け
- Step 5 最初のフロア取付け
- 重要 #1**
- One Point Advice**
- Step 6 石膏ボードを上げて、クリアランスを確保し巾木のみで納める場合
- Step 7 フロアの張り順
- Step 8-1 フロアのはめ込み方法
- One Point Advice**
- Step 8-2 フロアのはめ込み方法（注意点）
- Step 9 2列目以降の貼り始め
- 重要 #2**
- 重要 #3**
- Step 10 フロアの切断
- Step 11 フロア長辺方向への切断時 注意点
【丸ノコの刃を長持ちさせる切り方のコツ】
- Step 12 3列目以降の左端部の張り始め
- Step 13 クリアランススペースの確認・調整
- Step 14 パイプ廻りの施工方法
- Step 15 柱・枠がある場合の施工方法
- Step 16 最終列の納まり
- Step 17 スペーサーの取り外し
- Step 18 巾木の取付け
- Step 19 巾木の取付けの注意点
- Step 20 便器周りの納まりについて

重要 #4

Phase4 ■【センセーション】における耐水処理方法

Phase5 ■日常のメンテナンス

Phase6 ■見切りの取付け位置について

Phase7 特殊施工の納め方

■部分的に重量物を配置する場合

■フロア専用部材の取付け方

- ① T型床見切の取付け方法 【樹脂製】
- ② L型床見切の取付け方法 【樹脂製】
- ③ 段差型床見切の取付け方法 【樹脂製】
- ④ 上り框の取付け方法 【樹脂製】

Phase8

各部位における納まり（推奨）

■国内既存品 12mmフロアと

併用して使用する場合の納まり

- 壁面部 納まり① 新築-フロア先行張りの場合
- 壁面部 納まり② リフォーム-増し張りの場合
- 玄関框部
- 開き扉部の納まり
- 引戸下枠部の納まり①
- 引戸下枠部の納まり②
- 引戸下枠部の納まり③
- サッシ部の納まり L型床見切 ラミネート用
- 吹抜け部 目透かしタイプの腰壁 下枠納まり
- UB～脱衣部 納まりと処理について
- 階段①
- 階段②
- 床下収納庫の納まり
- パイプ周りの木口処理（防水処理）
- トイレ・洗面脱衣室の納まりと処理について
- ペルゴフロアを腰壁として使用する場合

Phase9

困ったぞ!! 対策は?

/ クレーム?? と考える前に・・・

【フロアが浮いてきたぞ!!】

【サネの部位にスキマが開いてきた!!】

One Point Advice

【部分的に欠けてしまった。

剥がして張り替える程ではないのだが・・・。】

【床鳴りがする】

One Point Advice

【広い面積をより早く施工したい!! 何かいい方法はない?】

【重量物・尖った物を落として大きく損傷した】

☆☆☆ バリエーション ☆☆☆

■ご使用の前に!! 施工時の注意点!!

【搬入・施工時の注意】

ベルゴフロアは、角が傷つきやすいため、搬入中・施工中の荷扱いには十分注意してください。
傷ついたまま施工すると目違い、欠けの原因となりますので取り除いて施工してください。

【下地の条件】

施工前に下地が平滑であることと異常なたわみや床鳴りが無いか必ず確認してください。
下地の不陸は1mに対して±1.5mm以下に調整してください。
下地が悪いと床鳴りやサネ割れ、フロア同士の隙間が発生する原因になります。
スラブ以外の下地には必ず12mm以上の合板を施工してください。根太の上に直接フロアは施工できません。
畳の上やカーペットの上の施工は避けてください。ただし、毛足の短いタイルカーペットの上からは施工できます。
ベルゴフロア自体に遮音性能はありません。マンションなどで遮音が求められる用途に関してはフロアの下地で遮音性能を確保した上で施工をお願いします。
商業施設にて乾式二重床を使用する場合は、商業用途用の補強タイプの製品を使用し、12mm以上の捨て張り合板の上にフロアを施工して下さい。

【シートの敷き込み】

下地とフロアの間に、不陸調整のための必ず『クッションシート』または『デュプレックスシート』を敷いてください。
シートは下地に固定せず、シート同士を重ねないようにして突きつけ、養生テープで留めてください。
シートを敷かなかつたり、重ねて施工したりすると不陸調整できず床鳴りの原因となります。

【フローティング工法】

ベルゴフロアは必ず『フローティング工法』(置き敷き工法)で施工してください。
下地への『クギ』と『接着剤』は使用しないでください。

【クリアランスの確保（突きつけ禁止）】

ベルゴフロアは温度・湿度により伸縮します。そのためすべての方向に『クリアランス』(調整幅)が必要です。
クリアランスの適正幅は8mm以上です。
クリアランスを確保しない場合や突きつけにした場合、フロアの浮きや床鳴りの原因になります。
コーキングによるクリアランス確保は、以下の要因が発生するので使用不可です。
・コーキング自体の硬化により、適正なクリアランスが確保出来ない。
・伸縮した際に、コーキング自体が盛り上がり、つまづきの原因となったり、コーキング切れの要因となる。
・コーキングの油分により、汚れの付着やシミの要因となる。
・見切は、下地に固定した見切ベースとフロアを挟んで固定するので、フロア端部を上から抑えることが出来るが、コーキングはその上からの固定が出来ずに浮きの要因になる。
・経年変化による硬化や汚れ、コーキング切れ、ひび割れ等の発生により、定期的なメンテナンスを要する。

必要クリアランス 目安表											
張り長さ	季節(目安)	クリアランス	張り長さ	季節(目安)	クリアランス	張り長さ	季節(目安)	クリアランス	張り長さ	季節(目安)	クリアランス
910	春 (3～5月)	8mm	1365	春 (3～5月)	8mm	1820	春 (3～5月)	8mm	2275	春 (3～5月)	8mm
	夏 (6～8月)	8mm		夏 (6～8月)	8mm		夏 (6～8月)	8mm		夏 (6～8月)	8mm
	秋 (9～11月)	8mm		秋 (9～11月)	8mm		秋 (9～11月)	8mm		秋 (9～11月)	8mm
	冬 (12～2月)	8mm		冬 (12～2月)	8mm		冬 (12～2月)	8mm		冬 (12～2月)	8mm
1820	春 (3～5月)	8mm	3640	春 (3～5月)	8mm	4550	春 (3～5月)	8mm	5460	春 (3～5月)	8mm
	夏 (6～8月)	8mm		夏 (6～8月)	8mm		夏 (6～8月)	9mm		夏 (6～8月)	10mm
	秋 (9～11月)	8mm		秋 (9～11月)	8mm		秋 (9～11月)	8mm		秋 (9～11月)	8mm
	冬 (12～2月)	8mm		冬 (12～2月)	8mm		冬 (12～2月)	9mm		冬 (12～2月)	10mm

上記の必要クリアランスは、両端部の合計ではなく片側のみの数値表記ですので、間違えない様にクリアランスを確保してください。

【最大スパン】

フロアを貼る最大スパンは、長さ13m・幅13mです。それを超える場合には、途中に『T型床見切 ラミネート用』を使用してクリアランスを確保してください。
確保しないと浮きや床鳴りの原因になります。

【施工における注意点】

- ①サネ部をきれいにしてから施工してください。木くず・ゴミなどが付着したまま無理やり施工しますと目違いを起こして表面欠けが発生します。
②サネ部は目違い、隙間のないようにしっかりとめ込んでください。
目違いや隙間があると欠けや床鳴りが発生します。

【重量物への対応】

重量物がある場合には、重量物の際(きわ)でL型床見切 ラミネート用で『縁切り』をおこないクリアランスを確保してください。
重量物の目安＝㎡当り350kgを超えるもの(アップライトピアノ相当)

【ビス固定の注意点】

ビスをフロアに固定(クローゼットの下枠やレール、ドアストッパー、サッシ下枠など)することは基本的に不可です。
ただし、以下の施工の場合は可能です。
①フロアの上にビス固定する場合。フロア厚 8mm以内のビス固定であればフロアの伸縮を妨げることがありませんので、取付けは可能です。
この場合、フロアの伸縮に準じて固定物が動きますので、可動に際して問題ない場合に施工してください。
②外周部と同じ様に、ビス廻りにクリアランスが確保できる下穴をフロアに空けてから下地にビスを留める場合。
ビスとフロアが接しない様に施工。この場合、ビスを締めつけてフロアの可動を妨げない様にビスを締める様にしてください。
直接ビスでフロアを固定すると突き上げ、床鳴りの原因になります。

【接着剤を使用する特例】

ストーブや温風ヒーターなど温風が直接フロアにあたる場所には、短辺のサネにボンドを塗布してください。
温風のあたるところで接着しない場合にはフロアの収縮により隙間が発生し床鳴りの原因となります。

【床暖房への対応】

床暖房を使用する場合には床暖房の下地に12mmの捨て張り合板を必ず敷いてください。
床暖房とフロアとの間に必ずデュプレックスシートを敷いてください。
床暖房の上で長時間座ったり、寝そべると低温やけどのおそれがあります。
ホットヨガ教室など床材が高温になるような場所には使用しないでください。
高温での使用はフロアのサネ部に隙間が発生することがありますのであらかじめご了承ください。

【防水処理】

フロアの切断面は防水処理がされておりませんので、水分が多い場所（脱衣場と風呂場の間、サッシが結露する場所、店舗の入口、トイレの便器の廻りなど）にはフロア切断面に防水シーラーを施してください。

床表面に水をこぼした際は放置せず速やかに拭き取ってください。

そのままにしますと、膨張、表面はがれの原因になります。

【センセーション】シリーズにおいては、P10 Phase 4の項目を参照して施工してください。

【その他の注意事項】

ベルゴフロアは耐傷性に優れたフロアですが鋭利な硬いものを落としたり、引っかいたりすると傷つきます。

また、ナイロンキャスターの場合に砂や小石や硬いゴミ等で傷がつく場合があります。

【メンテナンスなど】

土足での使用の場合、入り口にドアマットを敷いてください。

掃除などの際、床に水を撒かないでください。通常のお手入れは、固く絞った雑巾と掃除機で十分汚れが取れます。

こびりついた汚れにはメラミンスポンジをご使用ください。

ワックスは不要です。ワックスがフロアに浸透しないため、後からワックスの成分ははがれる場合があります。

Phase 1

■デザイン・仕様決定時

・ベルゴフロアの表層部分はメラミン樹脂含浸の素材で均一化された商品ですが、製造ロットにより微妙な濃淡が発生する場合があります。

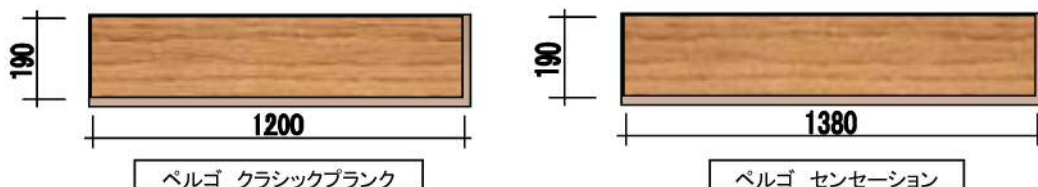
サンプル・カタログと色の違いは、ご了承ください。

・ベルゴフロアのHDF基板は、強度・環境良化・加工性等において極めて優れた特性を持つ建築材料です。

また、木質系の素材故に加工した後も室内環境の湿度に応じて常に伸び縮みは発生いたします。

（ムク材に比べて少ないということで、“ゼロ”という訳ではありません。材の性質上、多少伸びる傾向にあります。）

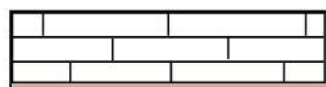
・『フローティング工法（置き敷き工法）』にて施工致しますので、床材を下地に釘・金物・接着剤にて止めることはありません。



・フロア表面のデザイン柄においては、【1枚タイプ】【2枚継タイプ】【3枚継タイプ】の3種類あります。それぞれ固定化したデザインであり、『〇〇オークの2枚継タイプ』といったようなアレンジは出来ません。



・クラシック レジスターエンボス 全5柄



・クラシック ノーマルエンボス 全3柄
計3柄

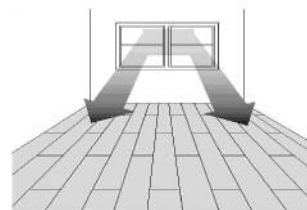
・センセーション

上記 2シリーズ全柄 全4柄
計9柄

・ベルゴフロアは材の性質上、衝撃により【欠ける】可能性があります。運搬・施工の際は特にサネ部や角部等を堅いものにぶつけない様にご注意ください。

・発注数量はロス分を含めて有効床面積プラス5%を目安としてください。

・デザイン上、窓等からの外部光とフロアの長手方向が平行になる様に施工すると綺麗に見えます。



Phase 2

■事前チェック

①下地のチェック

・ベルゴフロアは在来工法・ツーバイフォー工法・パネル工法・軽量鉄骨工法・RC造等々の全ての工法に使用出来ますが、基本的に12mm以上の下地合板を必要とします。

（RCスラブへの直接貼りも可能ですが、スラブの不陸がP3『ご使用前に!! 施行時の注意点!!』の項目の様に取れていることと、テュプレックスシートを必ず使用し、フローティング工法（置き敷き工法）にて施工する事としてください。）

・改修の場合、カーペット下地やタタミ上への施工について

カーペット等の柔らか過ぎる下地の場合は、フロアを張る前にカーペットを剥がしてから使用する様にしてください。

タイルカーペット上への増張りも可能ですが、グリッパー工法のカーペットへの施工は原則不可です。

（下地の状態により、フロア施工後にサネが外れる可能性があります。）

タタミの上に張る場合、スタイロタタミには可能ですが、藁床のタタミには施工不可です。

施工時にはテュプレックスシートを下地に張り、通気が取れる様にしてください。

通気を取れる様にしている場合、タタミ表面が劣化する場合がありますので、ご了承の上、施工ください。

・下地の不陸を確認し、床貼り工事に影響がある場合は手直してからフロアを貼ってください。不陸調整の目安は、【± 1.5mm/m以下】であること。

特にRCスラブ上に直接施工する場合は、コンクリート片等のハツリは必要不可欠です。

・施工前に下地が乾燥していることと、汚れ等が取り除いてあることを確認してください。

未乾燥の下地に施工すると、フロアにカビ・反りの発生要因となります。

② 商品到着時

・当商品は木質系ですので、荷下ろしの際にフォークリフトや荷吊りロープ等で傷を付けないよう充分注意してお取扱ってください。

・現場・倉庫での保管はパレット・台木の上に載せ、地面に直接置かないでください。また、シート等できちんと養生してください。

・商品は48時間前に現場に納入し、施工に最適な温度環境に馴染ませておく様にしてください。

③ 開梱時・割付時

・開梱時に重要な損傷が認められる場合は、商品到着後24時間以内に購入先にご連絡し、その材を使用しないでください。

Phase 3
■施工方法
Step 1

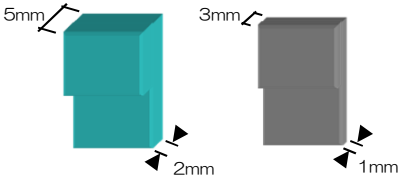
施工準備

施工を円滑に遂行させるには事前の準備が必要です。 下記の施工工具・付随品を事前に準備しておくことをお勧めします。



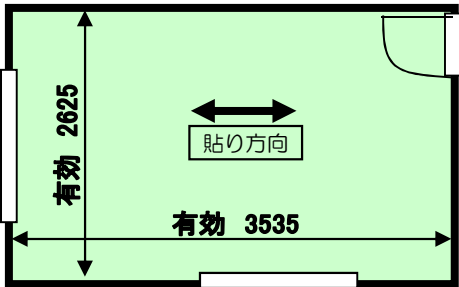
- 別売り【施工キット】
- ① スペースー
 - ② あて木
 - ③ 引き寄せ金具
 - ④ 丸ノコ
 - ⑤ 手ノコ
 - ⑥ カッター
 - ⑦ 養生テープ
 - ⑧ 両面テープ
 - ⑨ フローリングハンマー・ハンマー
 - ⑩ その他 一般的な施工道具(メジャー・差し金・墨壺 等々)

スペースーはベニヤ材の端材等でも代用可。
あて木も木片等にて代用可。



(初めての施工の場合は、施工キットのご購入をお勧め致します。)

Step 2 フロアの割付について



6帖間 芯々 2730 x 3640 の場合
(在来木造 3.5寸角 石膏ボード後張り)
有効 2625 x 3535

(片側 8mmづつ)

2625 - 16mm (両端のクリアランス) ①
① ÷ 190 (フロア幅) = 13.73枚
13枚の真物とカット材1枚
190 x 13枚 = 2470
① - 2470 = 139mm (=カット材)

最終側のフロアは長辺方向・短辺方向ともに50mm以上が必要であるため、139mmはOKである。

パーフェクトフォールドのサネ部には3タイプの施工方法があります。

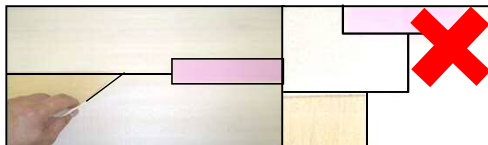
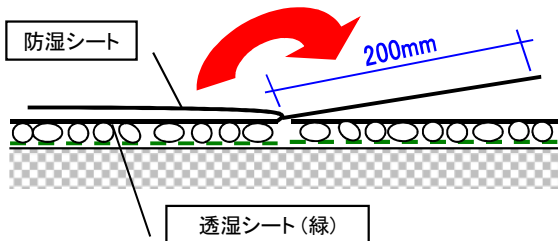
斜め	ドロップダウン	水平
サネを角度をつけてはめ込む方法 凸サネを凹サネ側に押し込む様にながらフロアを下げてはめ込んでいきます。	上から落し入れる方法 (短辺側) 長辺方向のサネは、斜め方式の様に施工しますが、短辺側においては上からそのまま落とし込んではめ込んでいきます。	横からはめ込む方法 フロアを下地に置いて、あて木を挟みながらハンマーで軽く叩いてサネをはめ込んでいく方法です。

Step 3-1 下地シートの敷き込み①

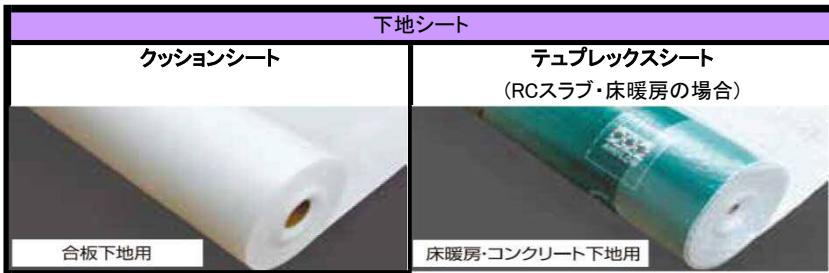


- ・不陸調整・防湿のために下記下地シートのいずれかを必ず敷いてください。
下地合板がある場合 クッションシート
RCスラブ・床暖房の場合 テュブレックスシート
- ・シート同士は突き付けとし、養生テープ等にて固定してください。
- ・テュブレックスシートの端部には重ね合わせのための上部側の防湿フィルムが200mm程伸びており、折り返されて巻返されております。
- ・端部を取り付ける場合は、そのフィルムを伸ばして上部側の防湿フィルムのみ重ねる様にしてください。(下図参照)
- ・テュブレックスシートは、印刷面(緑色)が下面となります。
- ・シートを敷かなかつたり、重ねて施工したりすると不陸調整できず床鳴りの原因となります。シートはズレない様に養生テープ等にて留めてください。

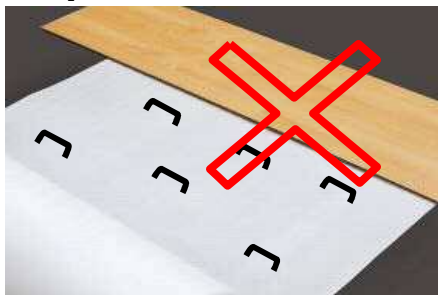
【テュブレックスシートの場合】



【クッションシートの場合】
重ね合わせ不可
突付けて、養生テープ留め

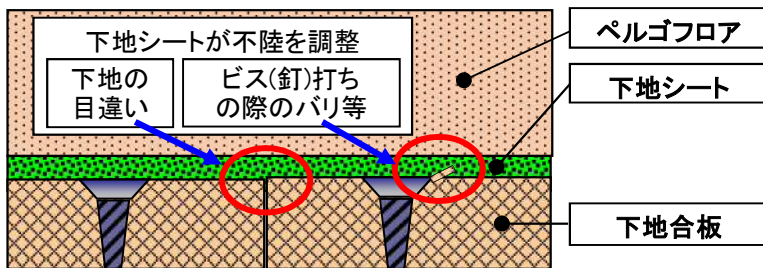


Step 3-2 下地シートの敷き込み② (注意点)



下地シートを下地に留める必要はありません。タッカーや接着剤は不要です。

タッカーで留めた場合、湿気により錆びる可能性があります。お勧め致しません。



下地シートは下地の不陸調整のためです。タイルカーペットの施工以外ではフロア直下には必ず敷いてください。

Step 4 スペースの取付け



壁との間に必ずスペーサーを使用して、クリアランススペースを確保してください。

スペーサーは約@400mm~500mmにて取り付ける様にしてください。

Step 5 最初のフロア取付け



部屋の左端より貼り始めます。

重要!! #1

クリアランススペースは絶対に確保して下さい。

下地シートは絶対に使用して下さい。



ケースの中に入っている紙は、裏面が簡易的な施工要領であるとともに、便利なテンプレートにもなります。



用紙の幅がフロアと同じ190mm幅となっておりますので、出隅や入隅がある場合など都度測って切断するのではなく、用紙を利用して簡単にカットしてテンプレートとして活用することが出来るんです。



取付位置を確認。



テンプレート用紙を形状に合わせてカット。



クリアランス分を確保して用紙を再カット。

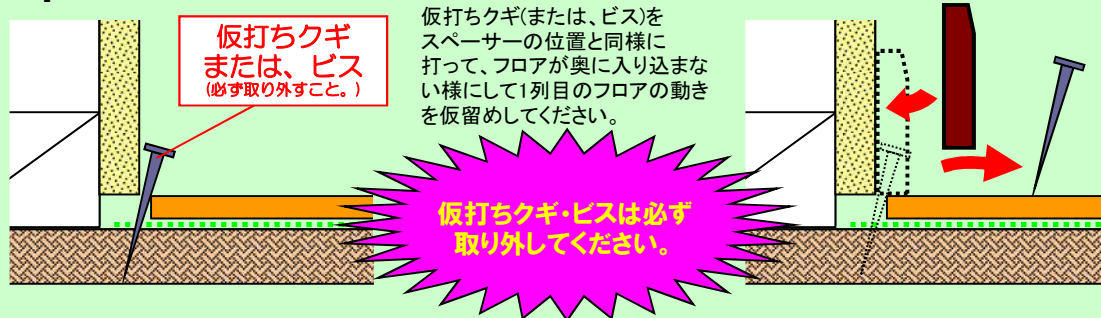


フロアに合せて、マーキング。



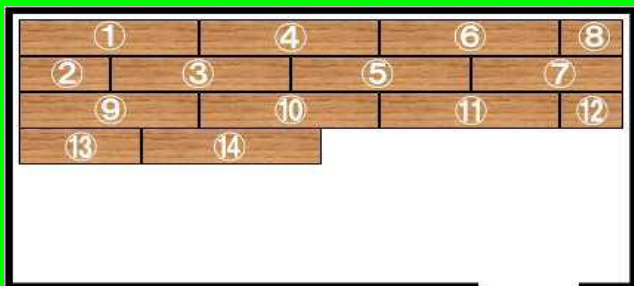
マーキングした部位をカット。

Step 6 石膏ボードを上げて、クリアランスを確保し巾木のみで納める場合



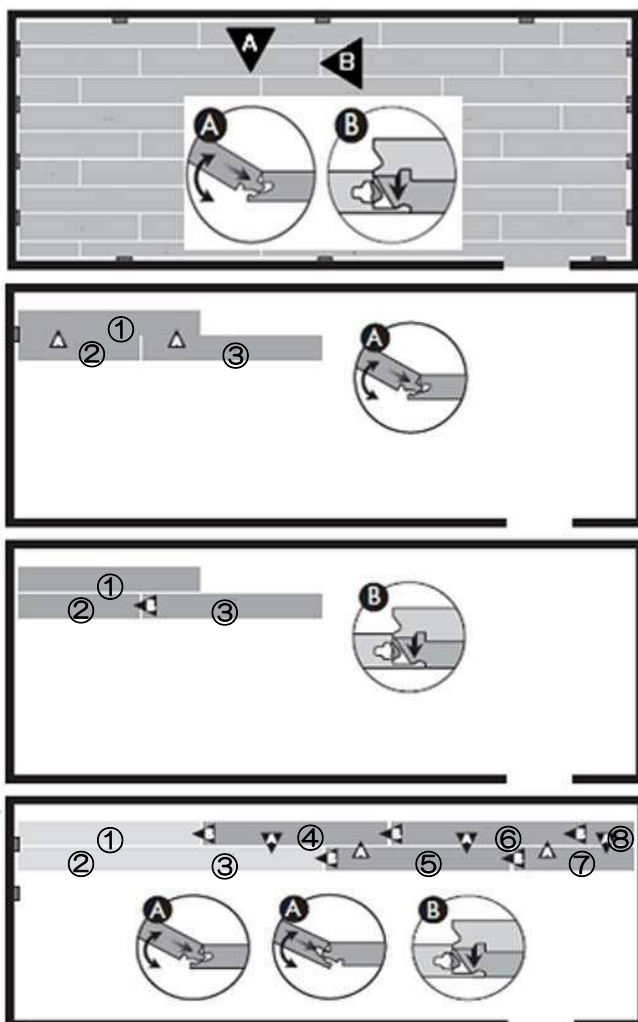
最後に、仮打ちクギ(または、ビス)を必ず取り外してください。
仮打ちクギ(または、ビス)を取らないと、クリアランスが確保出来なくなり、フロアの【浮き】につながります。

Step 7 フロアの張り順



- ・ 1列・2列目においては、互い違いにフロアを張っていきます。
左図、フロア①を張った後に、半分にカットしたフロア②を張ります。
フロア①の後に通常のフロア施工の様にフロア④を張ろうとすると、短辺のサネ部がはめ込み難くなります。
- ・ フロア②の後にフロア③を張り、その後に5列目に戻ってのフロア④を張ります。
- ・ フロア④以降においても、左図の順番に従って張ってください。

Step 8-1 フロアのはめ込み方法



- ・ 長辺方向のサネにおいては、P5 パーフェクトフォールド 施工方法【斜め】にてサネをはめ込んでいきます。
- ・ 短辺方向においては、同様に【ドロップダウン】にてサネを落とし込んでいきます。
- ・ フロアのはめ込み手順においては、長辺側から施工していきます。

注意!! 短辺方向のフロアを【ドロップダウン】にてゆっくりと落とし込み、目違いを発生させない様に確実ににはめ込んでください。

短辺のサネ同士を叩き込む様に落とし込むと、短辺の凹となっている側のサネが折れてめくれしてしまう場合があります。

ゆっくりと垂直に落とし込んだ後に、短辺側にズラす様にして施工してください。

- ・ 最初にフロア①を準備し、次に半分に切ったフロア②をフロア①の手前側(3列目)に【斜め】にて取り付けます。
- ・ フロア③を準備して、フロア②との短辺方向に合わせながら斜め方式にて取り付けます。
- ・ フロア③をそのまま【ドロップダウン】にて落とし込みます。
- ・ フロア④の取り付けにおいては、【斜め】ではめ込みとなりますが、通常の向きとは逆側からはめ込んでいく事となります。
- ・ フロア①との短辺方向に合わせながらフロア③の凸サネ側に差し込む様にしながら斜め方式にて取り付けます。
- ・ フロア④をそのまま【ドロップダウン】にて落とし込みます。

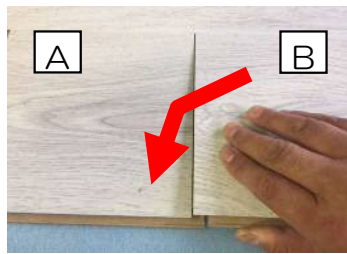


Step 8-2 フロアのはめ込み方法 (注意点)



下地の不陸が悪い場合など、フロア短辺側を落とし込む際に力任せに叩き込むとサネ同士がぶつかってフロアが破損したり、サネの内部割れが発生して目違いが起こる場合があります。

叩き込み 禁止!!
ゆっくりと落とし込むこと。



短辺同士をぶつけて落とし込むのではなく、少し隙間を作る様にし、BのフロアをA側に持っていく感じでゆっくりと落とし込んでください。



サネ同士が過度にぶつかっていないことを確認しながら、指で押し込む様にしてはめていってください。

サネ部に隙間が発生したら、Bのパネル右側の小口から軽く叩いてください。その際、目違いの発生がないことを確認してください。

Step 9 2列目以降の貼り始め



前列の短辺と施工列の短辺は300mm以上離してください。

【Step 7】にて切断した次列目の最初のフロア長さが300mm以下の場合には新しいフロアを半分切断して使用してください。

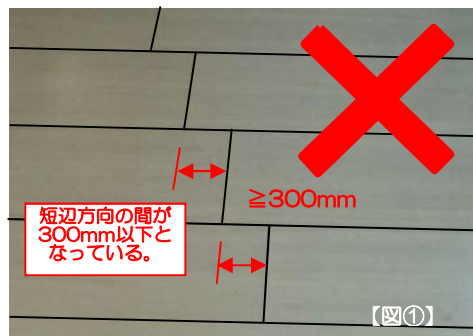


重要 #2

凹サネ部においては、溝の奥にゴミが入っている場合があります。その場合、はめ込もうとしてもはまりませんので、施工の際に都度ブラシ等にてゴミ詰り等を取り除いてから施工する様にしてください。

重要 #3

短辺同士のサネのつなぎ目においては、次列の短辺つなぎ位置から300mm以上はなす事とし、直線的もしくは同パターンとならない様にすること。右図①の様にパターン化された仕上がりにすると、見た目的にも悪くなり、伸縮における歪みが短辺のサネ部に集中し右図②の様に『すいてくる』といったデメリットが発生する場合がありますので、注意してください。はまりが甘い事・つなぎ目が近くなっていること等が要因となり『すいてくる』といった現象が見られますので、十分に注意願います。貼っている過程でパターン化してきた場合、前列端部のフロア材をそのまま使用するのではなく、新しいフロア材を使用寸法を意図的に変えて貼る様にしてください。

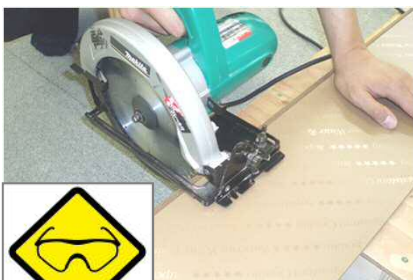


次列の短辺方向とのサネ部間隔が300mm以下となっている。見栄えも悪く、伸縮の歪みに影響されやすくなるので、300mm以上、あけて施工してください。



伸縮の歪みを受けて『すいた』事例。300mm以下ということと施工時のはめ込み不足も影響しているものと思われます。幅木を外して木口面から引寄せ金具にて引っ張ることである程度改善は出来ます。

Step 10 フロアの切断

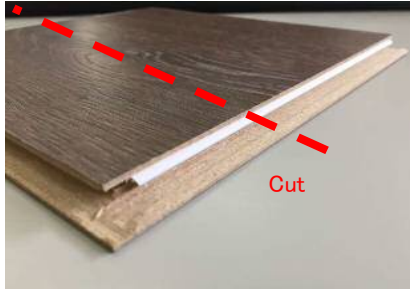


フロアの切断に際し、電動ノコギリを使用する場合は、化粧面を下向きにして切断してください。手ノコにて切断する場合は化粧面を上向きにして切断してください。



※電動ノコギリを使用して切断する際は、表面のメラミン層の破片が飛び出す場合がありますので、保護メガネを使用する様にしてください。

Step 11 フロア長辺方向の切断 注意点



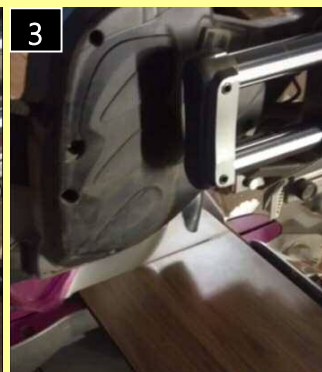
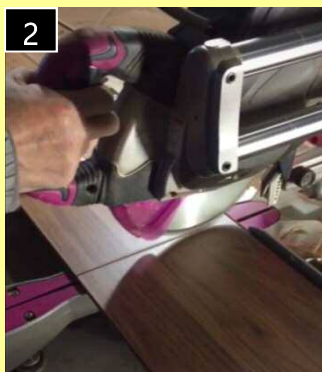
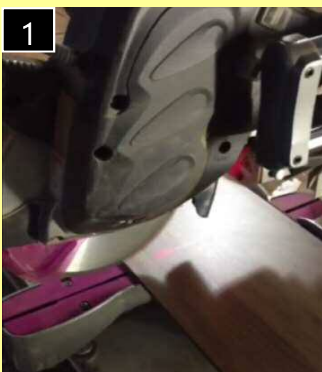
割付けの関係で、最初のコアを長辺方向に切ったものを使用する場合があります。

その際、短辺側に取り付けられている樹脂部材が丸ノコではねられて外れてしまう場合があります。

外れた場合、元の様に取り付けてから施工をしてください。

※センセーションシリーズにおいては、短辺方向の樹脂がクラシックシリーズとは左右逆に取り付けられておりますが、フロア施工に変更はありません。

【丸ノコの刃を長持ちさせる切り方のコツ [卓上スライド](参考)】



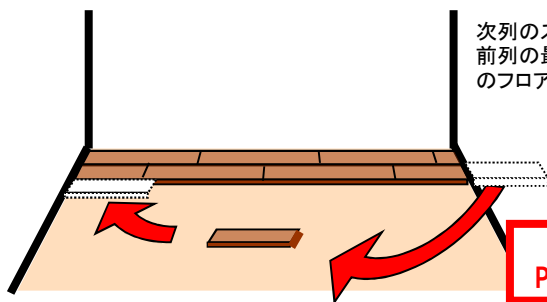
ノコの刃を十分に回転させてください。フロア材の表面部分(2mmくらい)を削る様にスライドさせて最初に筋を切り込みます。

次に、普通にカットする要領にてノコの刃を下まで下ろしてフロアを切断します。



左記の切断方法を動画で見ることが出来ます。右記のQRコードを読み取ってご覧ください。

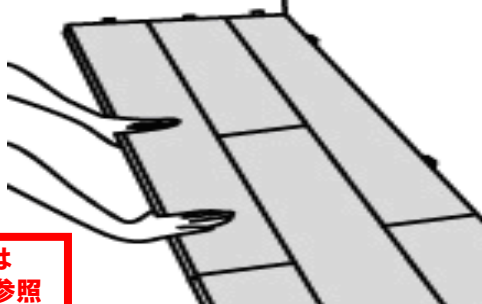
Step 12 3列目以降の左端部の張り始め



次列のスタートの際は、
前列の最後に切断した残り
のフロアを最初に敷きます。

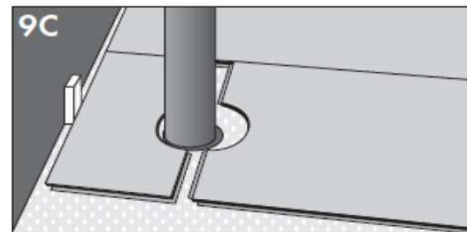
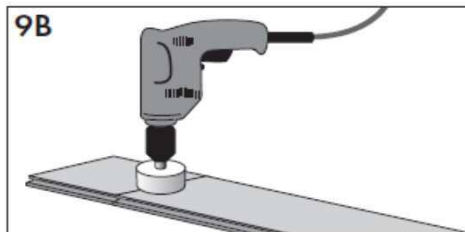
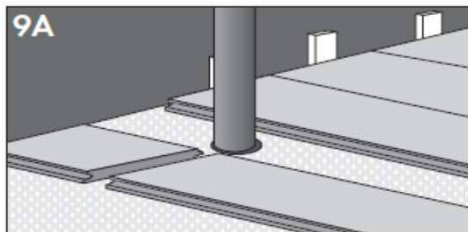
1列目・2列目は
P7 Step7～9を参照

Step 13 クリアランススペースの確認・調整



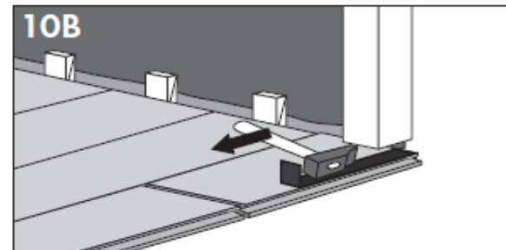
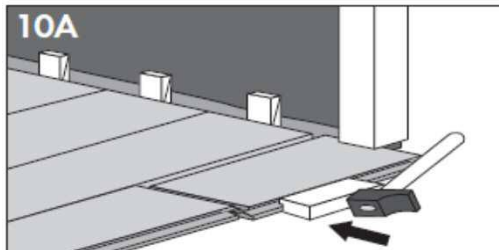
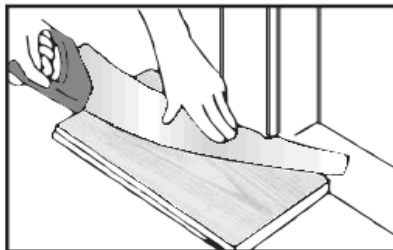
3列目が終了した時点で、
壁際のクリアランススペース・
両端の取り付け位置が
適正かどうかを再確認して
ください。以後は、3列目毎
に確認を繰り返してください。

Step 14 パイプ廻りの施工方法



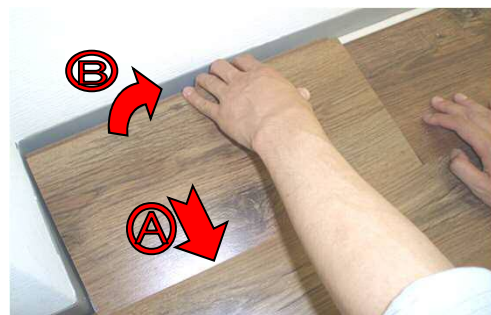
配管等の固定した部分に対しては、十分なクリアランススペースを取ること、配管結露による防水対策が必要になります。
配管の位置を確認し(9A)、ホールソー(9B)等にて大きめの穴を開けます。
開けた部位の木口面においては、防水処理を施して配管結露の影響が無いように対処してください。
床の施工後、隙間をカバーする配管用のカバー等で配管周りを塞いでください。

Step 15 柱・枠がある場合の施工方法



柱・枠の下部をノコギリ等にてカットしてください。
フロアをP5の【水平】の要領で差し込んでフロアをはめ込んでください。
長辺方向・短辺方向から、あて木・引き寄せ金具等を使用して引き寄せてください。

Step 16 最終列の納まり



最終フロアパネルの長辺方向の実を通常の パネルと
同様にAの方向に引き込みながらB側に押し下げて
ください。

Step 17 スペースの取り外し



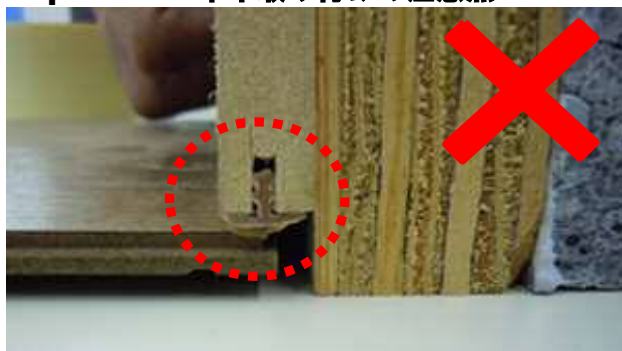
全てのフロア施工が終わりましたら、壁際の【スぺ
ーサー】を全て取り外します。 周囲に均一にスペースが
あることを確認してください。

Step 18 巾木の取り付け

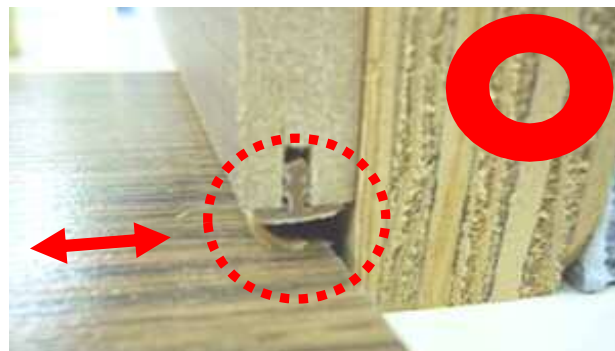


最後に、巾木がフロアを押さえ付けていないかを確認
してください。

Step 19 巾木取り付けの注意点



巾木にゴム付きのスペーサーがあるタイプを使用する場合、上画像の様
に過度に押さえつけて取り付けますと、フロアのクリアランスが取れてい
ても有効に動かない場合がありますので、右画像の様なゆとりを持って取
り付けてください。



クリアランスに有効性がないと、フロアの【浮き】【床鳴り】につながる可能性がありま
すので、巾木の取り付けの際は、押さえつけ過ぎない様に十分注意してください。
ネイルガンによるフィニッシュネイルで取り付ける際は、特に注意が必要です。

Step 20 便器周りの納まりについて

⚠ 重要 #4

便器の底部(立ち上がり部位)においては多少なりともR形状となっており、こぼした水や尿等がその隙間に溜まり、長い時間をかけてフロア材のつなぎ目から浸透していく場合があります。それにより、フロア材の【膨れ】が発生したり、基板が水分を含んでモロくなり【欠け】につながる場合があります。その部位の水分の滞留を防止する上でも、便器とフロア材との境部分にコーキング処理を施して水分が入らない様にしてください。

便器周りのフチ部に水・尿等が溜まり、フロア材のつなぎ目から水分が浸入してフロアのダメージにつながる場合があります。

便器

水分の滞留を防止し、フロアへのダメージを防止するためにも便器まわりにコーキング処理等を施して下さい。

便器



水分の滞留にてフロアにダメージが発生した事例。

尿石等の溜まり具合から、多大な尿の滞留が予想出来ます。

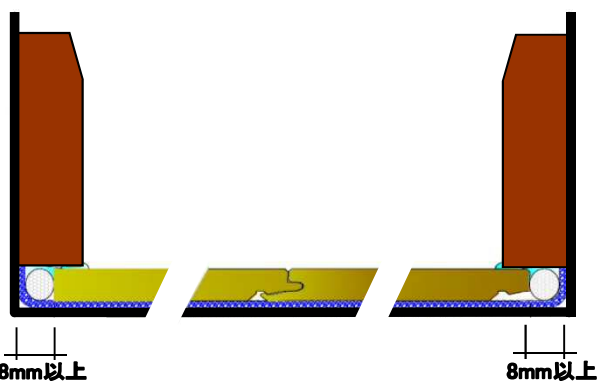


Phase 4

■センセーションにおける耐水処理方法

【センセーション】シリーズは耐水性の高い製品ですが、端部・際部において以下の様な処理を厳守してください。

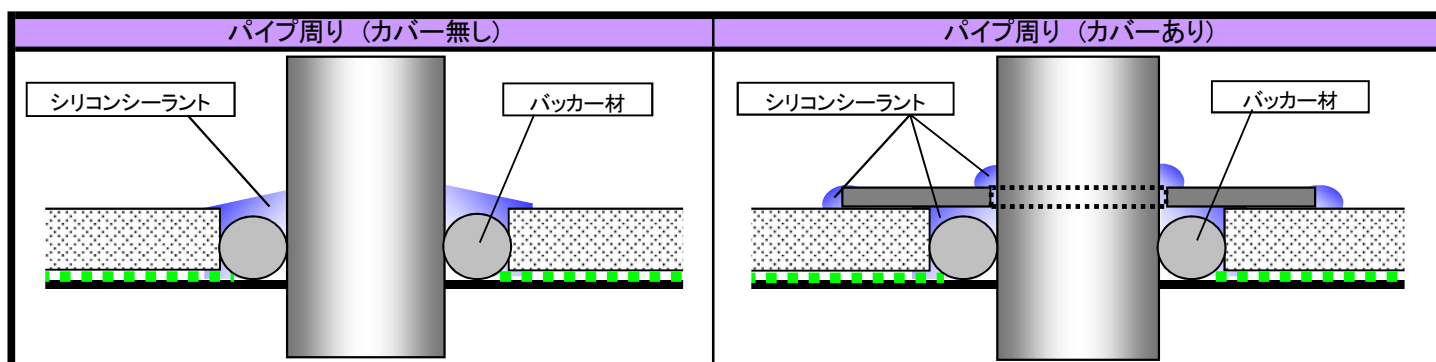
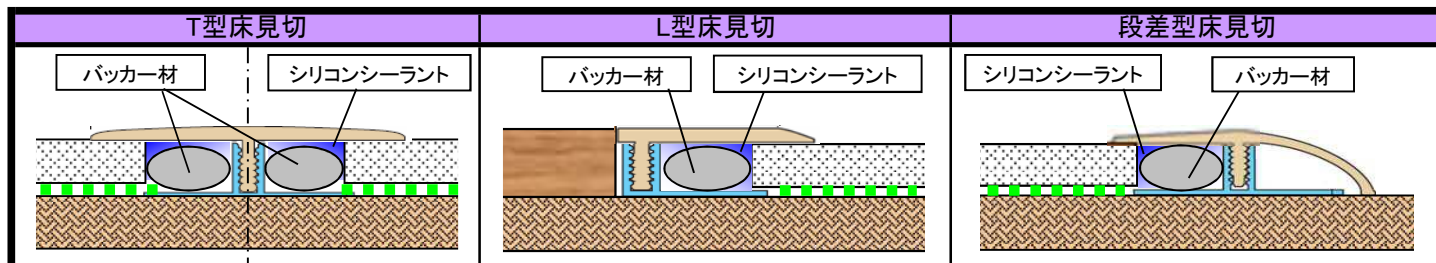
サウナ・プール・シャワールームの様な排水が必要な場所や、ウェットルームの様な防水規制がある場所には対応しておりません。



- ① 耐水施工には、シーリングのため市販の伸縮性のある防水透明ペースト『シリコンシーラント』と『バックカー材』を使用してください。
- ② 『シリコンシーラント』と『バックカー材』を組み合わせ、外周のクリアランスを密閉します。『バックカー材』をクリアランス部に押し込み、フロアに対し少し角度を付けて『シリコンシーラント』を塗布します。
巾木を取付けの際、下部からの水の浸入を防ぐため床と巾木の間に『シリコンシーラント』を塗布してから取り付けてください。
巾木の取り付け位置にマスキングしてから『シリコンシーラント』を塗布すると仕上がりがきれいになります。
- ③ 各種見切の取付けの際は、『バックカー材』を取り付けた後に『シリコンシーラント』を塗布し、見切りのキャップを取り付けてください。
見切キャップを取り付ける場合、床と見切キャップとの境に『シリコンシーラント』を塗布し水の浸入を防いでください。

- ④ パイプ周りの施工においては、②同様に『シリコンシーラント』と『バックカー材』を用いて、耐水処理を施してください。

パイプカバーを取り付ける場合は『バックカー材』を取り付けた後に『シリコンシーラント』を塗布し、パイプカバーを取り付けた後に再度『シリコンシーラント』を塗布し、水の浸入を防いでください。



Phase 5

■日常のメンテナンス

- ・市販のモップ等を用いた空拭きで構いません。
- ・汚れが残る場合は、固く絞った雑巾などで水拭きにて落としてください。
水拭きにて落ちにくい場合は、中性洗剤等を付けて擦り落としてください。
- ・ヒールマークが付いた場合や、水拭き・洗剤でも落ちにくい汚れの場合は、市販のメラミンスポンジを使用しますと汚れは落とせます。

・ **ワックスは掛けないでください。**

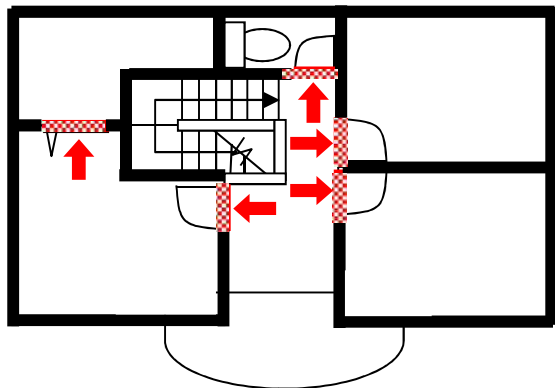
Phase 6

■見切りの取り付け位置について

見切りの取り付けは、P2『■ご使用前に!! 施行時の注意点!!』の項目でも記載しました様に、一辺の最大スパンが13m以内としております。

住宅等においては、一辺のスパンが13mを越すことはほとんどありませんが、貼る形状が複雑になる場合があります。

複雑な形状による歪みなどを防止する上でも、出来る限り各居室ごとの見切りを入れることをお勧め致します。



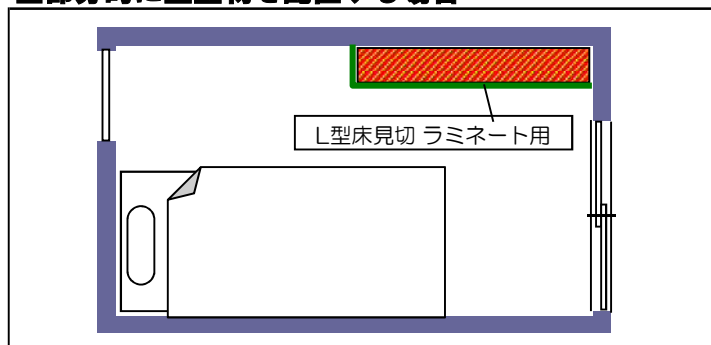
※各種見切・框等は樹脂にオレフィンシートを貼ったタイプで室内物件用です。

店舗・老健施設等、土足や車椅子使用の物件等は樹脂見切では割れる可能性があるため、市販のステンレス等の見切を採用をください。

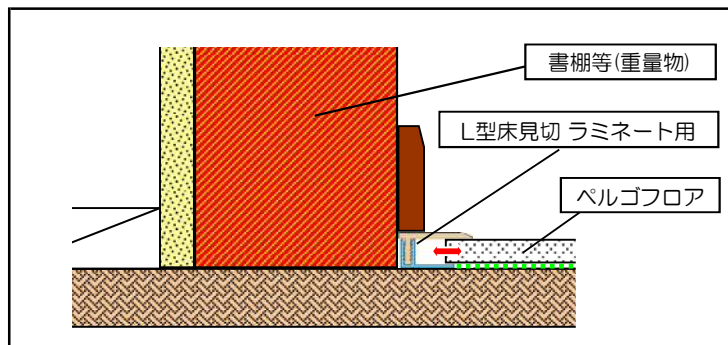
Phase 7

特殊施工の納め方

■部分的に重量物を配置する場合



部屋の一部に書棚等の重量物がある場合、下地マットが重量にて潰れ、実部に負担が掛かり、実部に隙間が発生したり段差が発生する場合があります。

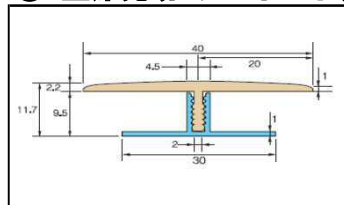


重量物の寸法を測った上で、L型床見切等によりクリアランスを設けること。フロアの上に重量物を配置すると伸縮の逃げ場が無くなり、浮き・隙間の発生につながる恐れがあります。

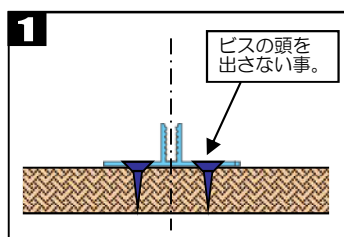
■フロア専用部材の取り付け方法

①T型床見切 ラミネート用の取り付け方法

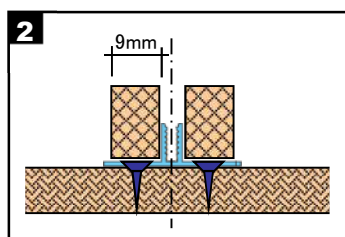
【樹脂製】



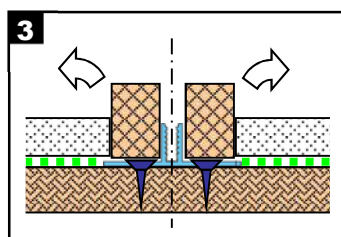
ビスは皿ビスとし、ビスの頭が出ないようにして取り付けてください。
フィニッシュネイルにて取り付ける場合は、割れない様に注意してください。



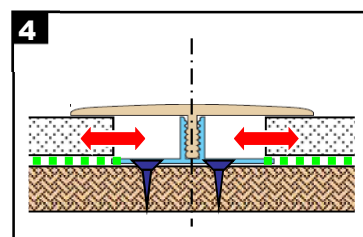
樹脂ベースを壁際にビスもしくは、両面テープにて取り付ける。



樹脂ベースの両端にスペーサー(ベニヤ等)を挟み、フロアを施工する。



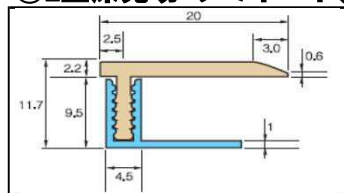
下地マットは樹脂ベースの手前までとし、樹脂ベースの上に載せない。



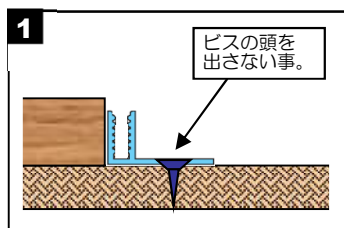
スペーサーをはずし、見切り本体を上からかぶせてください。

②L型床見切 ラミネート用の取り付け方法

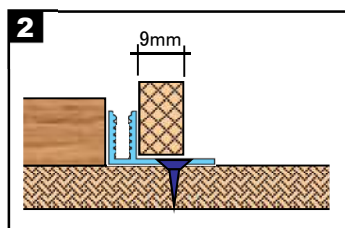
【樹脂製】



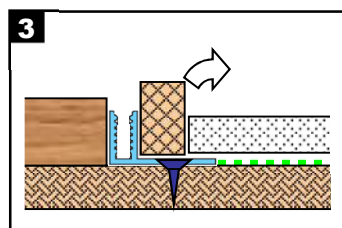
ビスは皿ビスとし、ビスの頭が出ない様にして取り付けください。
フィニッシュネイルにて取り付ける場合は、割れない様に注意してください。



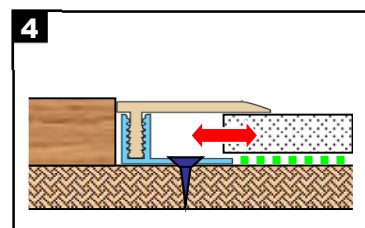
樹脂ベースを壁際にビスもしくは、両面テープにて取り付け。



樹脂ベースの前にスペーサー(9mm ほどのベニヤ等)をはさんでからフロア貼りの施工を開始します。



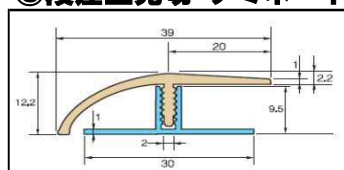
下地マットは樹脂ベースの手前までとし、樹脂ベースの上に乗せない。



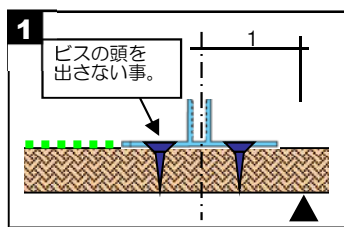
スペーサーをはずし、見切り本体を上からかぶせてください。

③段差型見切 ラミネート用の取り付け方法

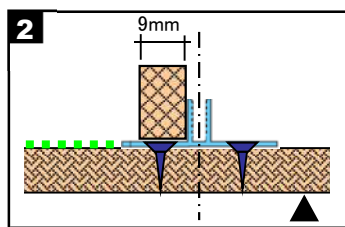
【樹脂製】



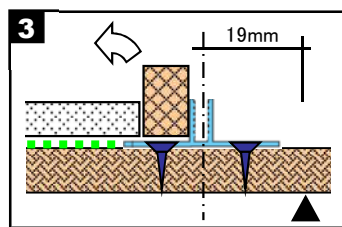
ビスは皿ビスとし、ビスの頭が出ない様にして取り付けください。
フィニッシュネイルにて取り付ける場合は、割れない様に注意してください。



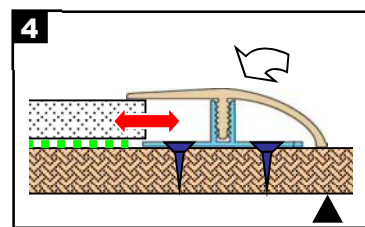
段差型床見切の先端となる部位から19mm内側にベースのセンターが来る様に取り付けます。



樹脂ベースの前にスペーサー(9mm ほどのベニヤ等)をはさんでからフロア貼りの施工を開始します。



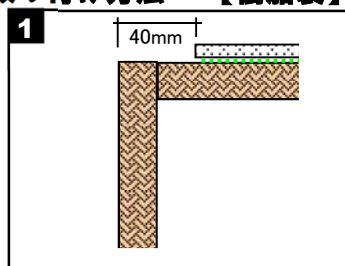
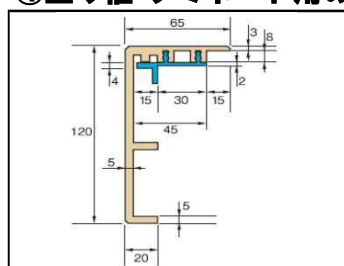
スペーサーの手前までフロアを張った後に、スペーサーを取り外します。



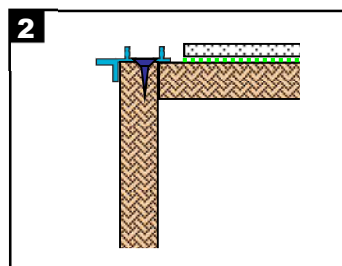
段差型床見切を押し込む様にして取り付け。

④上り框 ラミネート用の取り付け方法

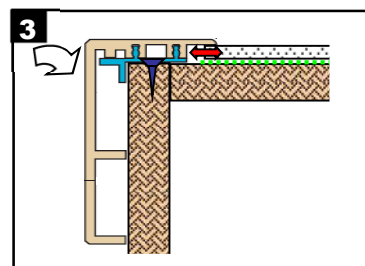
【樹脂製】



際の部位から40mmの位置にてフロアを張る。



樹脂ベースを際角部にビスにて取り付け。

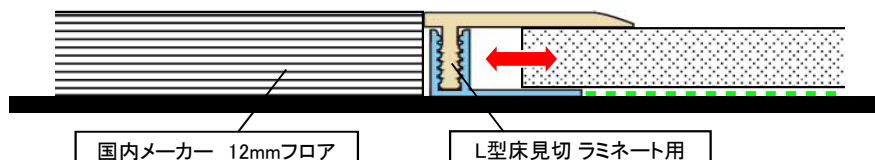


框を上から押し込む様にして取り付け。

Phase 8

各部位における納まり (推奨)

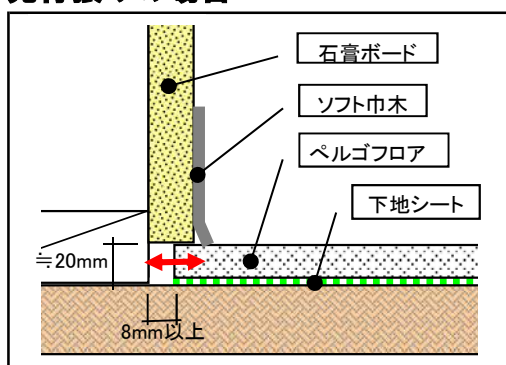
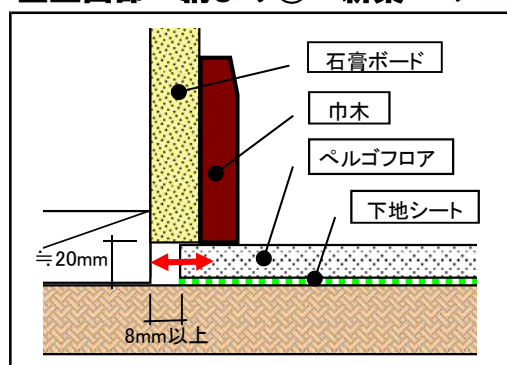
■国内既存品 12mmフロアと併用して使用する場合の納まり



フロア + 下地シート = 10mm(①)
L型床見切 ラミネート用のキャップ厚が2.2mm(②)
① + ② = 12.2mm

微妙な段差は発生致しますが、ほぼフラットと考え、L型床見切を使用することで、ベルゴフロアのクリアランスも確保され、納めることができます。

■壁面部 納まり① 新築 - フロア先行張りの場合

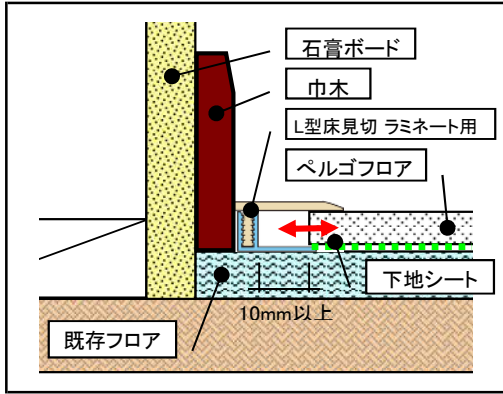


① 壁下地から、8mm以上のクリアランスを開けてフロアの施工を開始してください。

② フロアを張った後に石膏ボードを張ってください。石膏ボードはフロア側に押し下げずに張って、フロアの伸縮を妨げない様にしてください。

③ 最後に、巾木を取り付けてください。

■壁面部 納まり② リフォーム - 増し張りの場合

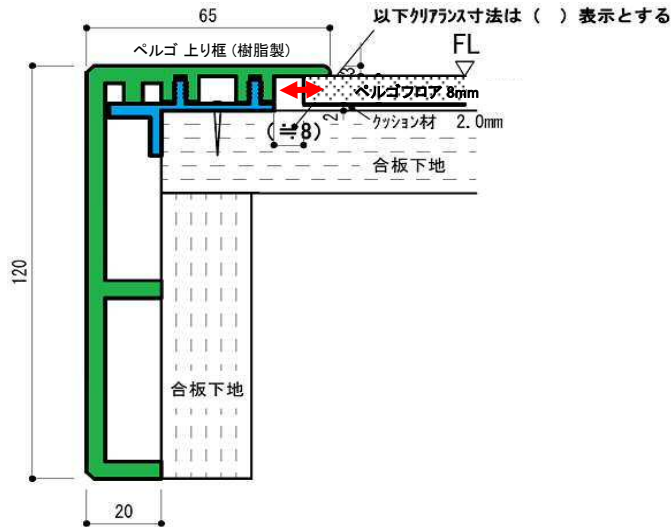


【L型床見切を使用の場合】

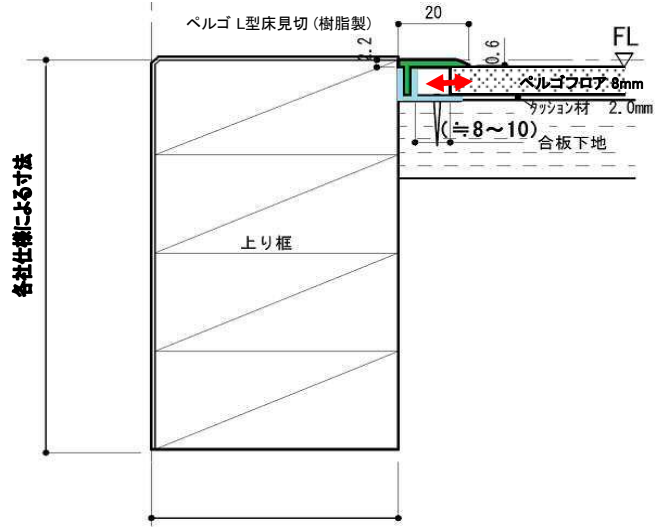
- ① 既存フロアの上にペルゴフロアを増し張りとし、巾木を外さないで施工する場合、巾木の手前にL型床見切 ラミネート用を使用して【納まり①】同様にクリアランスを確保して施工してください。

■玄関框部

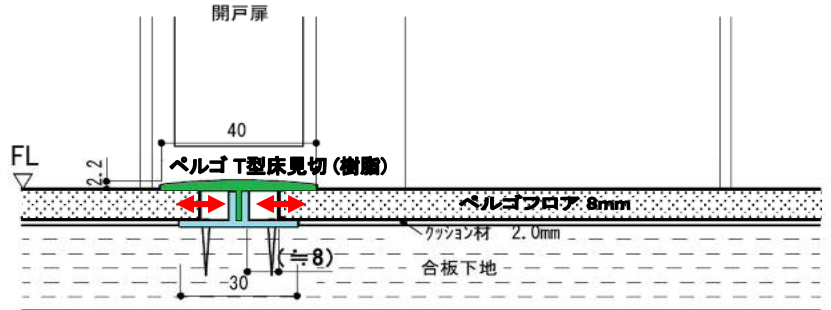
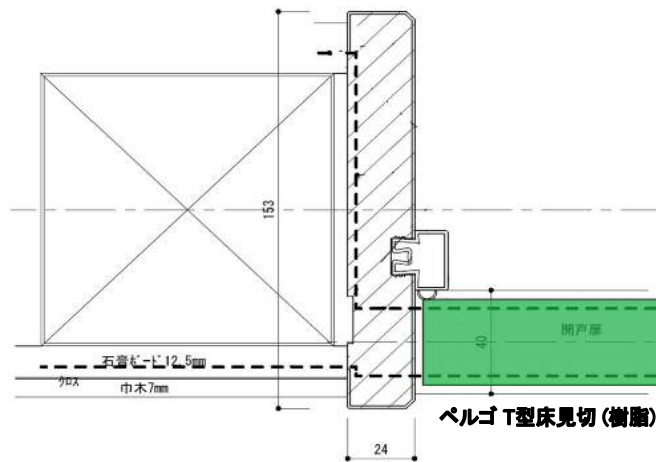
専用框の場合



市販框 + L型床見切 ラミネート用の場合

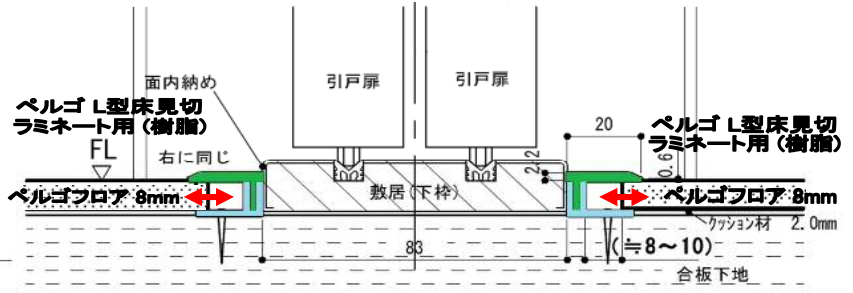
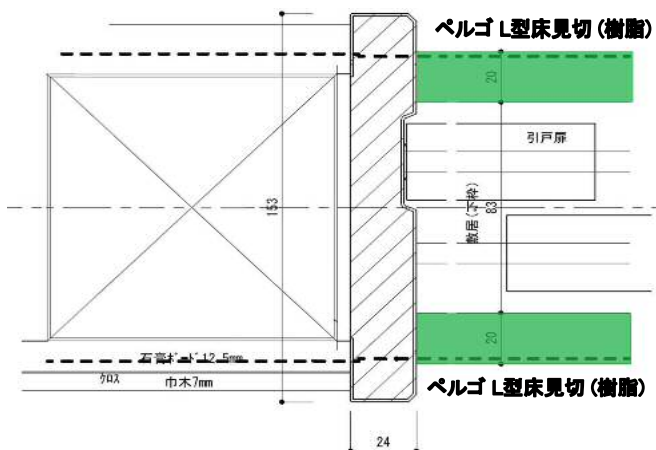


■開き扉部の納まり



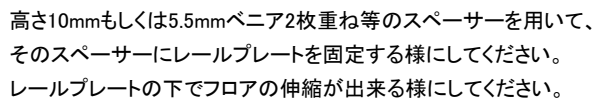
- 縦枠下のクリアランスを確保する上で、フロアを張った後に縦枠を取り付けることをお勧めします。
- フロアを縦枠取り付け後に施工する場合は、縦枠の下部にてクリアランスが確保できる様に、縦枠を10mm程度浮かせて取り付けください。
- P11『■見切り付けの位置について』の項目でも記載しましたが、各居室の入口部はT型床見切にて縁を切ってください。

■引戸下枠部の納まり①

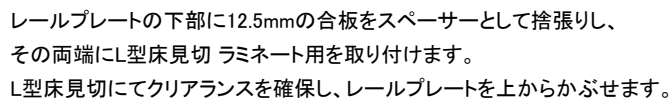


- 引戸の下枠がある場合、下枠との境部分にはL型床見切を取り付け、クリアランスを確保出来る様にしてください。
- 下枠に若干の被り部位があるタイプのメーカー品がありますが、被り部分が小さいので、有効なクリアランスとはなりませんので、必ずL型床見切にてクリアランスを確保してください。

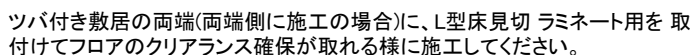
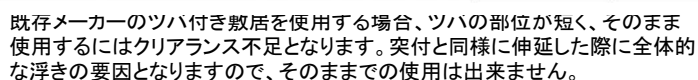
レールプレートのみでクリアランスを確保する場合



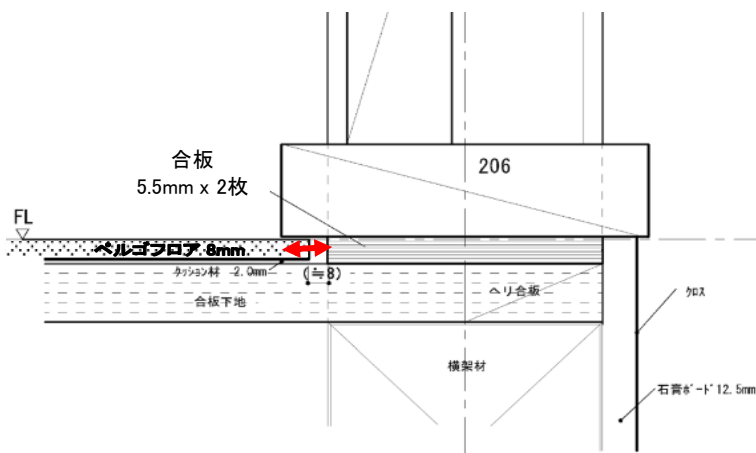
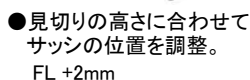
L型床見切にてクリアランスを確保する場合



ツバ付き薄敷居の場合



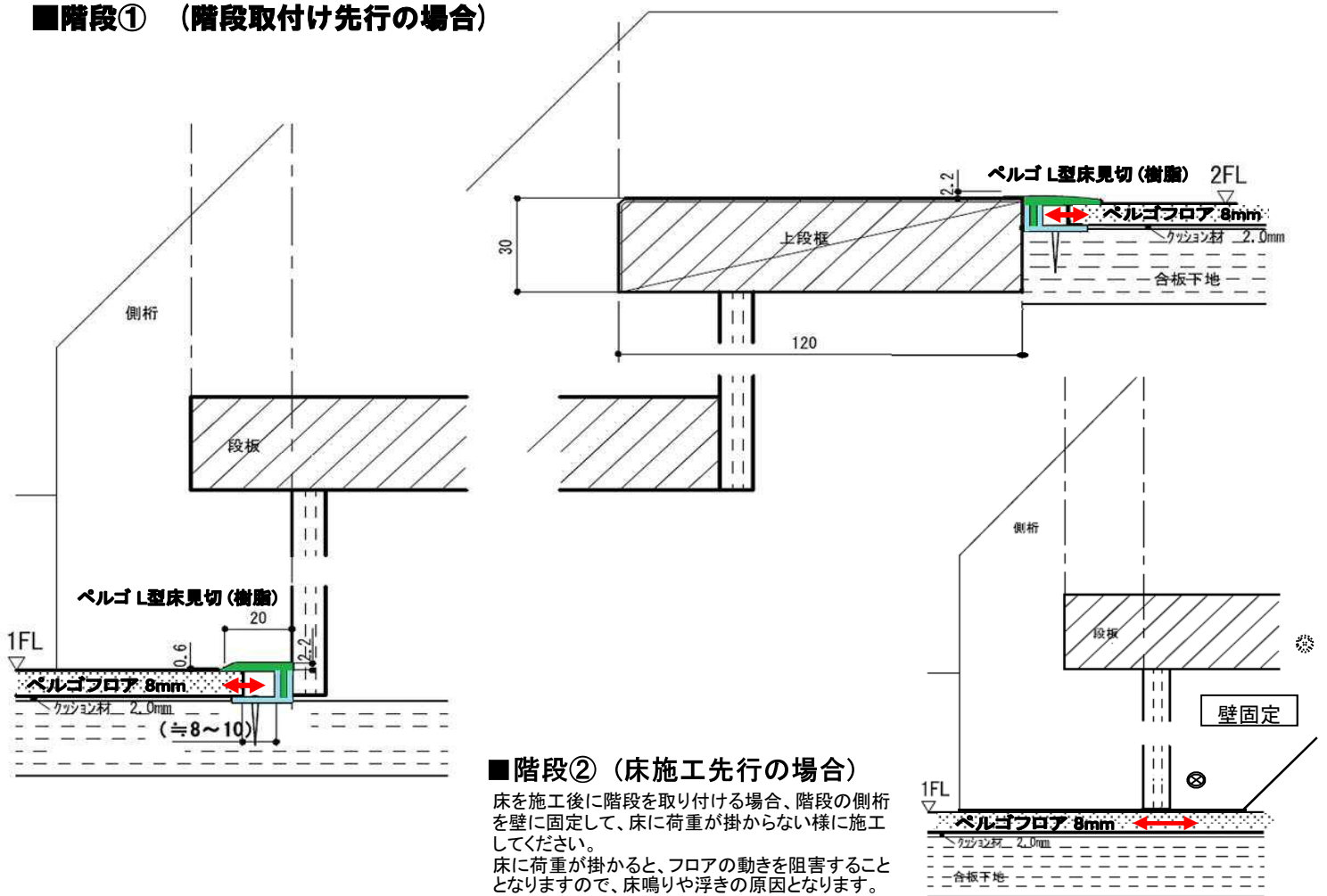
■吹抜け部 目透かしタイプ(栗棒等)の厚壁 下枠納まり



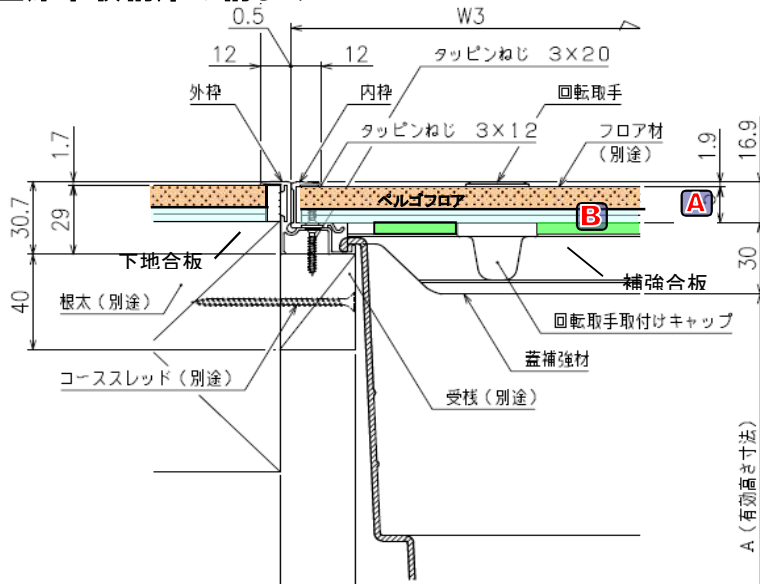
コーキング処理

ユニットバスの下枠アングル部位とL型床見切との取りあい部において、水の浸入を防ぐためにもコーキング処理を施してから見切りキャップを取り付けてください。

■階段①（階段取付け先行の場合）



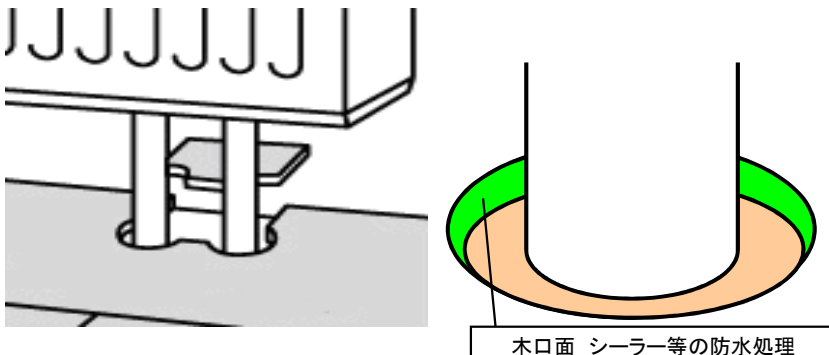
■床下収納庫の納まり



内枠の厚みAに合う様にフロアをはめ込んでください。
各メーカーによって内枠の厚みが異なるものと思いますので、指定の厚みに納まる様に合板等(B)をフロアに張って内枠内に収めてください。
合板等との接着においては、ウレタン系の接着剤を使用してください。
内枠(収納庫蓋)の下に、9mm合板等を張るとより強固になります。

フロアは通常の施工となりますが、外枠部内にてクリアランスを確保してください。
内枠内においてはクリアランスを確保する必要はありません。
(枠内にて可動防止のため。)

■パイプ周りの木口処理（防水処理）

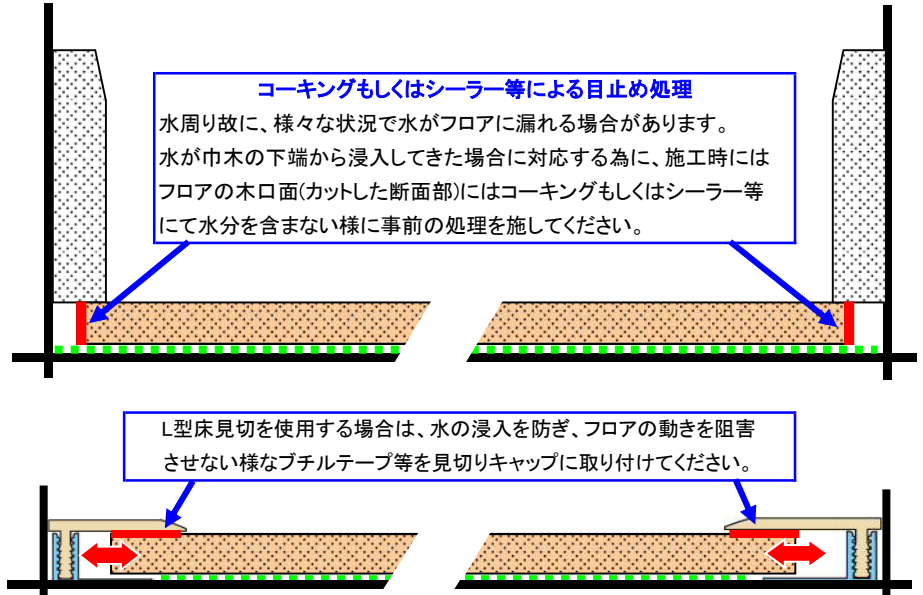
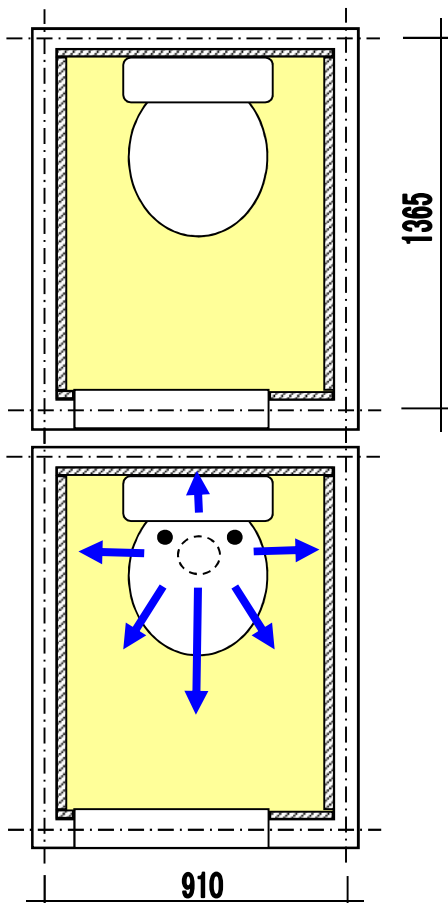


配管等においては結露等が発生して水滴が滴する場合も考えられますので、給排水管周りには材の質を問わずにカットもしくはホールソー等にてくり抜いた木口面全てに水分を吸収しない様にシーラー等にて目止め処理を施してください。

処理をしない場合、結露水等にて木口面から水分を吸収し、フロアが膨らむ場合があります。

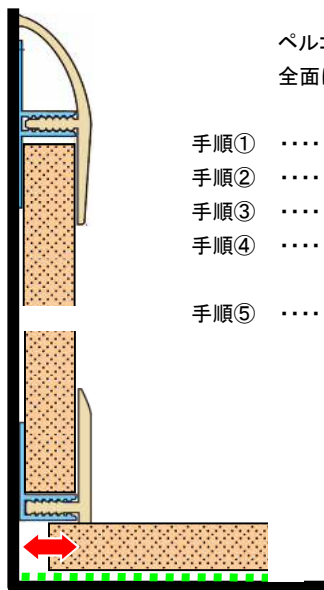
■トイレ・洗面脱衣所の端部納まりと処理について

一般的な910x1365のトイレの場合



トイレにおいては、配管・便器固定のボルト等があり、フロアを固定せざるを得ません。
 トイレという狭い場所ゆえ、固定した場所を中心に四方の伸縮に対応するためにも、四方のクリアランスを確保してください。
 入口扉に敷居がある場合は、L型床見切等にてクリアランスを確保してください。

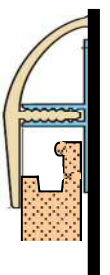
■ペルゴフロアを腰壁として使用する場合



ペルゴフロアを腰壁として施工することも、キズの付き難さ、凹み難さの観点からも有効です。
 全面に接着剤固定する施工方法以外にも専用見切を活用することで、再活用出来る施工方法があります。

- 手順① 腰壁の下部にはL型床見切を縦使いとして使用。
- 手順② 腰壁の上部には段差型見切を縦使いとして使用。
- 手順③ 見切りの固定においては、強力タイプ両面とする。ビス等にて固定する場合は、ビス頭が出ない様にすること。
- 手順④ フロアを腰壁として使用する際、長期間縦使いとなるため、『たわみ』を防止するためにも途中2ヶ所程を目安に、ブチルテープもしくはウレタン系の厚手強力両面テープにて部下地に固定する様にしてください。
- 手順⑤ 腰壁上部の段差型見切の部位において、フロアの伸縮対応の為に5mm程のクリアランスを確保する様に施工してください。

フロアをカットせずに1200mmの長さのまま腰壁に使用する場合、左図の様にサネをカットせずに腰見切りとなる段差型見切の中で納めることで、後年再利用しやすくなります。
 (【センセーション】タイプはL=1380となるので、注意のこと。)



Phase 9

困ったぞ!! 対策は? / クレーム?? と考える前に・・・

【フロアが浮いてきたぞ!!】

原因…フロアのクリアランス不足が原因です。

ペルゴフロアに限らず全てのフロアは伸縮致します。一般的なフロアはクギ・接着剤を使用して下地に固定しておりますので【浮く】という心配はありません。

しかし、伸縮によって【反り】【スキマの発生】が起こります。

ペルゴフロアはクギ・接着剤を使用しないフローティング工法(置き敷き工法)ですので、伸縮に対応する【クリアランス】が壁際等に必要となります。この【クリアランス】が少なかったり、全く取っていない場合、材が突っ張って上に逃げるという現象、つまり【浮き】の発生になります。

対応…【浮き】の原因は材の突っ張りによるものですので、【クリアランス】を確保することによって解消します。

四方の巾木を外して、壁際の部位を適正なクリアランスとなる位置までカットしてください。

このことによって【浮き】は解消されるものと思います。あとは巾木を貼り直してください。

【浮き】が大きい場合は、はめていたサネ部分が逆に反ってしまうことでサネの部位が割れてしまっている可能性があります。この場合は、適正クリアランスを確保していてもサネが外れやすくなっていたり、目違い(段差)が発生する場合があります、その部位の貼り替えをお勧めします。

【サネの部位にスキマが開いてきた!!】

原因…フロア材の伸縮に伴いクリアランスを確保することとなっておりますが、フロア施工後に様々な業者が入ることで知らずの内に一部を固定したり、重量物にて固定同様の状態となり、伸縮の際に短辺方向のサネが開く事があります。

対応…壁際の部位であれば、巾木を外して引寄せ金物にて引寄せることで解消します。

その際、サネの突起部分が壊れている可能性がありますので、接着剤を注入してください。

壁際以外の場所であれば、右下写真の様な強力な吸盤を用いて叩き込んでみてください。

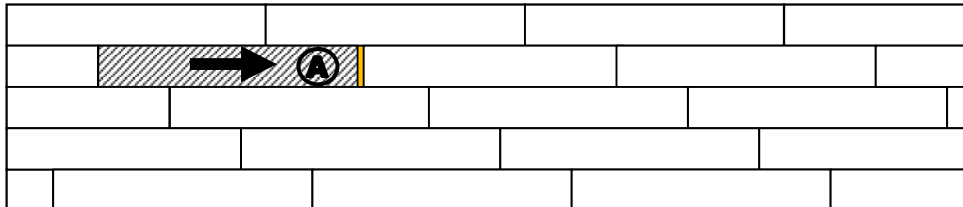
サネの摩擦抵抗があり動き難い場合もありますが、力を入れて叩いてください。

可能であれば、2人で2個同時併用等にて実行して戴くとより可動し易くなります。

この場合も同様に、サネの突起部分が崩れている可能性がありますので、可能であれば接着剤を注入することをお勧めします。

手順① スキマの場所を考慮してどちら側に引き込むかを考慮。

出来るだけ、移動させるのを短い側を移動させる。(その際、サネの向きは関係ありません。)



手順② 隙間が開いている部分に入ってしまったゴミをブラシやエアで取り除いてください。

手順③ 隙間が開いている部分から150mmくらいの所に吸盤をセット。(Aの位置)

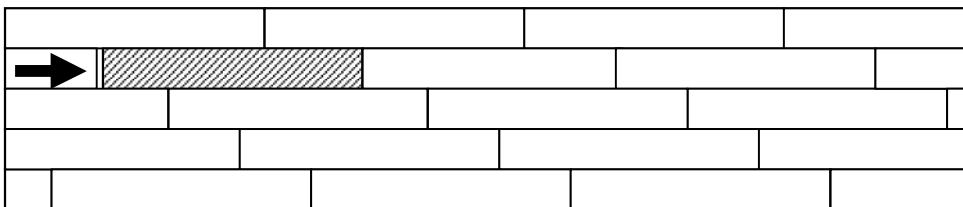
手順④ 隙間が開いている部分に白ボンド(木工用ボンド)を注入してください。

手順⑤ 吸盤の角(右図Bの位置)をゴムハンマーにて力を込めて叩いてください。

フロアが動かず吸盤だけが移動することもありますので、吸盤面を拭いたりしながら根気強く

【吸盤を取り付ける】→【ゴムハンマーにて叩く】の作業を繰り返してください。

手順⑥ 移動させるフロアを叩いていくと、隣接する隣のフロアとのサネが開いてくる場合があります。



この場合は、②～⑤の作業を繰り返し、隣接のフロアをずらしてください。



上記の様な吸盤がない場合の対応方法

吸盤がない場合、400mmくらいのランバー材(ツーバイ材や間柱の端材等)に両面テープを貼り付けて抵抗とし、軽く踏みつけながらハンマーにて叩いていくことでフロアを動かすことが可能です。

この場合、両面テープのノリがフロアに残る場合がありますので、施工後にシンナー等にて拭き取ってください。



400mmくらいの木材に両面テープを貼る。



動かしたいフロアに木材を貼る。



木材を軽く踏み、ハンマーにて木材を叩いてフロアを動かす。

【部分的に欠けてしまった。剥がして張り替える程ではないのだが…】

原因…フロア自体は硬く、表面もキズが付にくい特徴がありますが、絶対的なものではありません。

施工時にフロアをぶつけてしまうことで、特に角部などは【欠け】が発生することがあります。

フロアを接続の際、指の腹でつなぎ目をさすって段差が確認出来る場合などは靴等のつまづきなどで部分的に欠ける場合もあります。

施工後にドアストッパーの取付を行う場合や、

フロア用コンセント取り付けのためにドリル・ホール

ソウなどの器具を用いてフロアに加工を施す場合も

表面に欠けが発生する場合があります。

対応…通常市販品のパテやホットプレスなどでの補修は

可能です。

大きな欠け等はリペア専門店にご相談ください。



補修パテ・電熱コテ(ホットナイフ)・カッター・フロア用ペン 等々



補修する部位は、綺麗にしておいて下さい。



電熱コテ(ホットナイフ)にてクレヨンを溶かし、補修部分に盛っていきます。



クレヨンはフロア表面から多少盛り上がるくらいで構いません。



クレヨンの表面をカッター等にて削っていきます。



フロア用ペンを用いて、クレヨンの上から木目を書いています。



仕上り

別途補修要領書がありますので、補修の際は
お取り寄せの上、作業
を実施してください。

【床鳴りがする】

施工中・施工後にピキピキという床鳴りが発生した場合は、下記の要因が考えられます。

- 原因…
- ①不陸調整の不備によるもの。
 - ②サネのはめ込みが不十分であった。
 - ③クリアランスの確保が不十分であったため、【浮き】まではいかないがフロアパネルが突っ張っていた状態によるもの。
 - ④見切り取り付け箇所が不十分であり、ドア枠や何らかの干渉物がありフロアの動きに歪みや障害を及ぼしていたことによるもの。
 - ⑤クリアランスは十分確保していたが、巾木を過度に押し付けており、クリアランスが機能していなかったことで、③の状態と同様に突っ張っていた状態であったこと。(P9 Step 19参照)
 - ⑥クリアランスは確保していたのだが、開口部のドア枠部にクリアランスを取っておらず、実質クリアランスが機能していなかったことや、戸あたりのビス打ち・設備関係取り付け時に台座固定のため、ビス等にてフロアに固定する等の床工事以外の業者様が知らずに通常施工してしまった。

フロア材の問題ではなく、施工の不備やクリアランス確保という大前提の認識不足です。

対応①…通気により自然と治まることもありますので、十分な換気をして少し様子を確認してみてください。
それでも治まらない場合は、巾木を取り外してクリアランスの有無を確認してください。
クリアランス不足が確認できましたら、前頁【フロアが浮いてきたぞ!!】の対応の項目と同様に処置してください。
クリアランスが確保出来たら、⑤の様に巾木の過度な押さえ付けによるクリアランス未機能が疑われますので、全ての巾木を外し、床鳴りの解消が確認出来たら、押さえ付けに注意して再度幅木を取り付けてみてください。
建具縦枠の部位にて少しの干渉でもクリアランスが機能しない場合もありますので、確認し調整願います。

対応②…床鳴り防止剤による一時対応。

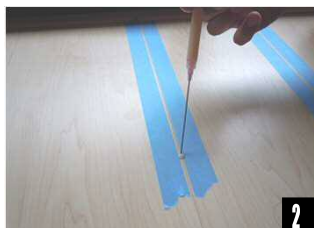
床鳴り防止剤(摩擦抵抗軽減タイプ)を床鳴り箇所塗布・乾燥させることで、ワックス成分がサネ部に浸透し床鳴りを抑える効果があります。
当社の実験では床鳴りはしばらく止まったことが確認できましたが、恒久的な対策とは考えておらず、あくまでも一時的な対応レベルと認識して考えております。



用意するもの：
床鳴り防止材
マスキングテープ
注入器(スポンジ等でも可)・雑巾



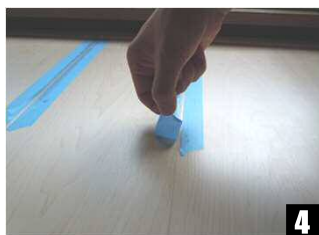
床鳴りする箇所にマスキングテープを貼ります。



マスキングした部位に床鳴り防止剤を塗布します。



床鳴り防止剤を塗布した後、しばらく放置し乾くまで待ちます。



防止剤が乾燥したらマスキングテープを剥がします。



マスキングテープを剥がした後は、薬剤が残っておりますので、拭き取ってください。



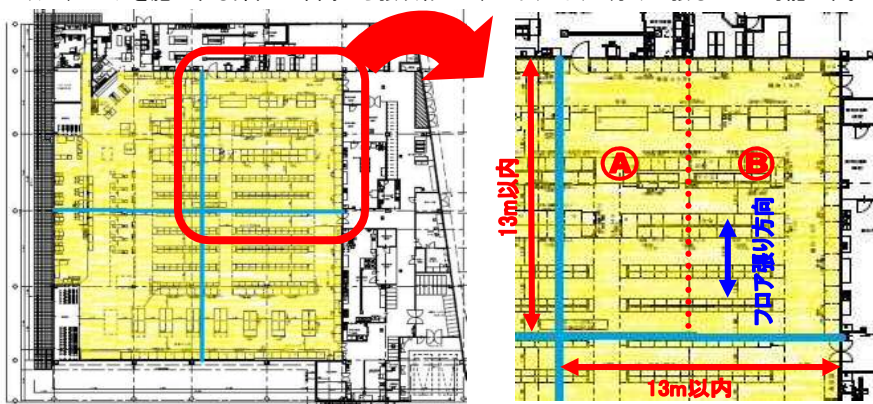
薬剤は主にワックス成分となっておりますので、多少ヌメリがありますので、光沢がなくなるまで綺麗に拭き取るようにしてください。



マスキングして剤を注入した後、吸盤等を用いてフロアを上げてサネの部位を開くようにするとより剤が浸透しやすくなり、効果的です。

【広い面積をより早く施工したい!! 何かいい方法はない?】

ベルゴフロアは、最新式の5Gという特許取得のサネ形状となっており、逆張りができるフロアとなっております。
故に、フロアを施工する部位の中間から張り始めて、上下(左右)に分けて張ることが可能です。



本来は、左端から施工を開始するが、張るブロックのセンターから上下(左右)に分けて張ることで、AチームとBチームの2班体制で張ることが出来るので、人員を動員することで、より早く施工が可能。

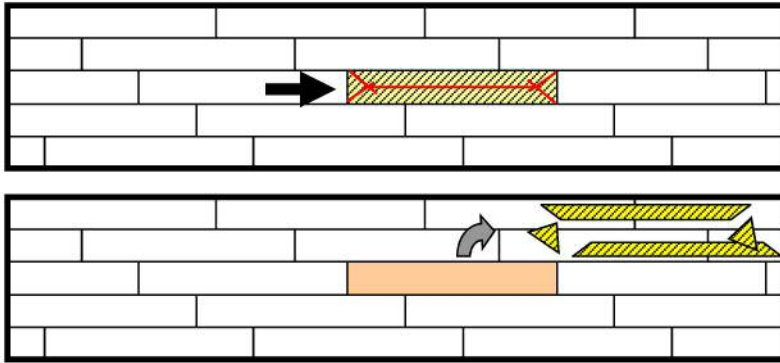
左図では、Bチームが標準施工とした場合、Aチームが逆張り施工となる。

ブロックにて張り分ける場合、隣のブロックとの割付け寸法を事前に確認・設定してから施工する様に、ご注意ください。

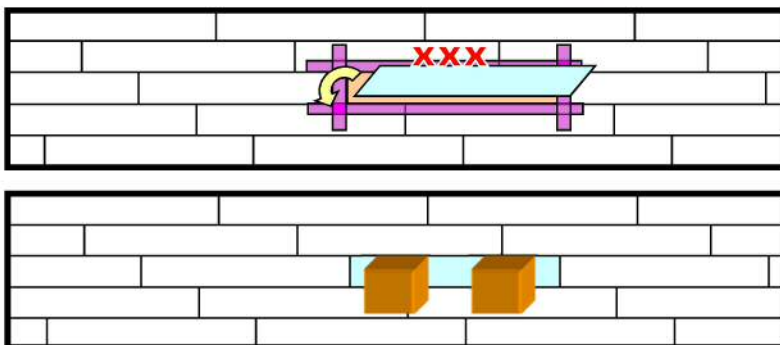
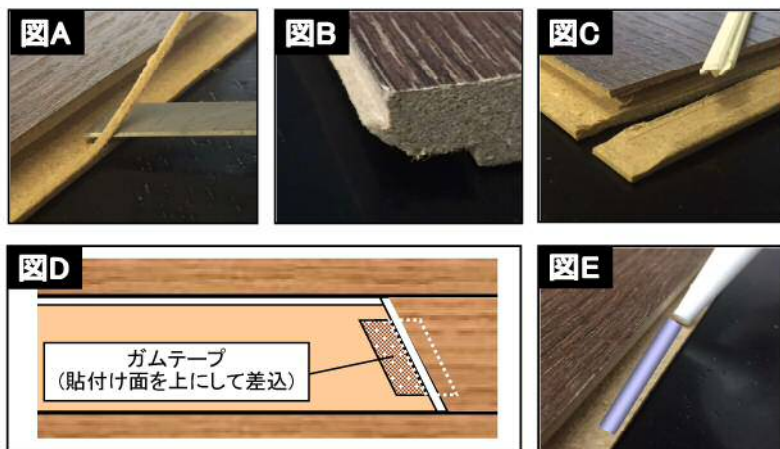
【重量物・尖った物を落として大きく損傷した】

【部分的に欠けてしまった。剥がして張り替える程ではないのだが・・・】の項目でも明記致しましたが、懸け凹みに対して絶対的なものではありません。重量物や尖った物を落とした場合には大きく損傷し、『補修』というレベルを越す場合もありますのでご了承ください。ペルゴフロアの特徴の一つとして、置き敷きフロアゆえに端部から剥がして損傷の部位を交換ということではなく、1枚のみの交換が可能です。下記手順を交換方法の目安として参照ください。施工方法においては、交換方法①と交換方法②がありますので、参照ください。

【共通項目】 破損フロアの剥し方

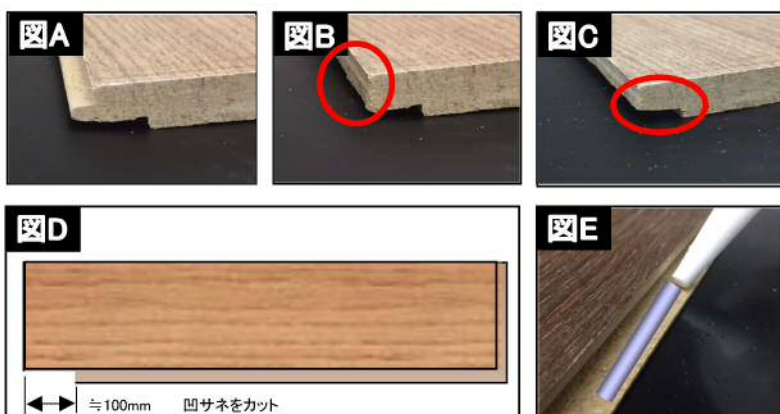


【交換方法①】



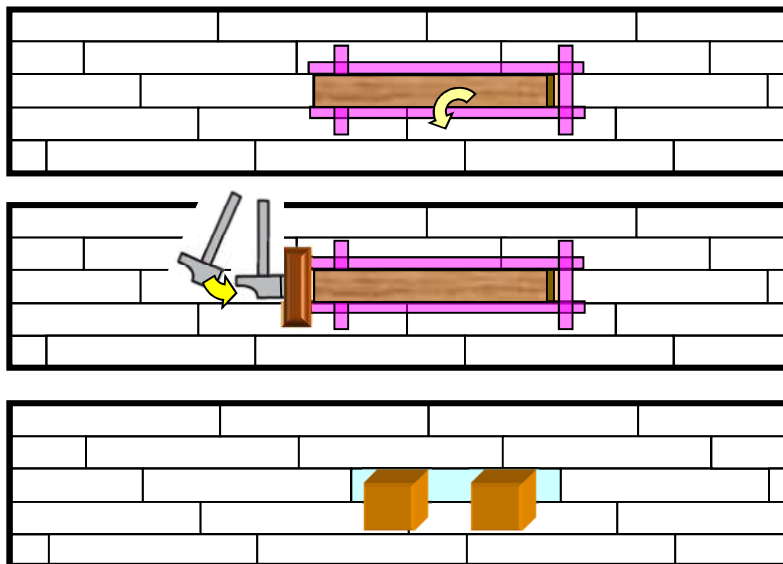
※壁際に近い部位にて施工する場合、手順⑩にてフロアを持ち上げても十分に持ち上がらず、はめ込みの難い箇所での作業。その場合は、【交換方法②】にて施工してみてください。

【交換方法②】



- 手順① 交換フロアの短辺側両側を三角に切断します。隣接するフロアのギリギリ手前で止めてください。三角部を切断したら、両側をつなぐ様にフロア中央を切断して下さい。
- 手順② 交換フロアをパール等を使用して取外してください。取り外す際に、周りのフロアを傷つけない様に注意して取り外してください。
- 手順③ 全ての端材を取り外しましたら、細かな端材・ゴミ等が残らない様に、掃除機で吸い取ってください。細かな端材が残っている場合、新しいフロアがはめ込めない場合があります。(特にサネ部分の溝)
- 右記のQRコードから部分切断の動画を見ることが出来ます。読み取ってご確認ください。
- 手順④ 新しいフロアを用意し、長辺方向の凹サネ部(図A)の突起部をカッターもしくはノミで平らになる様にカットしてください。
- 手順⑤ 長辺方向・短辺方向の凸サネ部(図B)を1/3位になるまでカットしてください。
- 手順⑥ 短辺方向の凹サネ部は全てカットしてください。(図C)その際、サネに取り付けてある白いパッキンは取り外してください。
- 手順⑦ 交換フロア部の周りのフロア端部を養生テープ等にてマスキングしてください。
- 手順⑧ 短辺方向のサネをカットしているので、短辺同士の接合性がありませんので、図Dの様にガムテープを裏側にして隣のフロア下に差し込んでください。隣のフロアを吸盤にて持ち上げると、ガムテープを差し込み易くなります。
- 手順⑨ 【手順④】にて用意したフロアの長辺凹サネ部に接着剤(図E)を塗布し、凹サネ部側から差し込みます。
- 手順⑩ 差し込んだ側とは反対側に隣接するフロアのxxx部を吸盤にて持ち上げてください。
- 手順⑪ 吸盤にて持ち上げた際に新しいフロアとの境に若干のスペースが出来るので、それを活用して新しいフロアをはめ込んでください。その際、力強く叩き込むと隣接のフロア際部が損傷する場合がありますので、注意して落とし込んでください。
- 手順⑫ 周りのフロアに貼っていた養生テープをはがし、接着剤が固まるまで、【重石】を載せておいてください。





- 手順④ 交換する新しいフロアを用意し、短辺凸サネ側を左側に見た場合の長辺凹サネを端部から100mmほどカットしてください。(図D)
- 手順⑤ 前列凹サネ部にボンドを塗布してください。
- 手順⑥ 新しいフロアをはめ込む四方のフロア境に養生テープを貼ってください。
ボンドのはみ出しとキズ付保護のため。
- 手順⑦ 新しいフロアの短辺凹サネ側を隣のフロアギリギリの位置に配置し、長辺側の凹サネをはめ込んでください。
- 手順⑧ 新しいフロアの短辺凸サネ側にアテ木を当てて、軽く叩いて各部サネをはめ込んでいきます。
- 手順⑨ ボンドのはみ出があった場合は、良く拭き取った後に養生テープを剥してください。
- 手順⑩ 目違い(段差)が発生していないことを確認し、接着剤が固まるまで、【重石】を載せておいてください。

☆☆☆ バリエーション ☆☆☆

クラシックプランク ノーマルエンボス 厚み 8mm x 幅 190mm x 長さ 1200mm 7枚入 (1.60㎡)				
スプリームビーチ L0301-01796	ウォールナット L0301-01791	ソリッドオーク L0301-01790		
				
3枚継ぎタイプ	3枚継ぎタイプ	3枚継ぎタイプ		
クラシックプランク レジスターエンボス 厚み 8mm x 幅 190mm x 長さ 1200mm 7枚入 (1.60㎡)				
ナチュラルオーク L0301-01804	シルバーオーク L0301-01807	ブロードオーク L0301-01787	ナチュラルソウカット L0301-01809	サーモオーク L0301-01803
				
		3枚継ぎタイプ		
センセーション 厚み 8mm x 幅 190mm x 長さ 1380mm 7枚入 (1.84㎡)				
コースタルオーク L0331-03374	ヴィレッジオーク L0331-03375	カシードラルオーク L0331-03543	ライムグレーオーク L0331-03367	
				
四方 面取り	四方 面取り	四方 面取り	四方 面取り	

専用部材			
T型床見切 ラミネート用 PGT-●● 11.7 x 40 x 2700	L型床見切 ラミネート用 PGE-●● 11.7 x 20 x 2700	段差型見切 ラミネート用 PGA-●● 12.2 x 39 x 2700	上り框 PGC-●● 120 x 65 x 2700
●●の部位には、下記の品番を明記して発注ください。			
クラシック スプリームビーチ : SB ソリッドオーク : SO ウォールナット : WN	クラシック ナチュラルオーク : NO シルバーオーク : SV ブロードオーク : BO ナチュラルソウカットオーク : SC サーモオーク : TO	センセーション コースタルオーク : CSO ヴィレッジオーク : VGO カシードラルオーク : CSO ライムグレーオーク : LGO	
クッションシート CS30	デュプレックスシート TUP33	施工工具 I-KIT	
 合板下地用 2 x 1000 x 30m 30㎡/巻	 床暖房・コンクリート下地用 3 x 1100 x 30m 33㎡/巻	 スパースー・あて木・引寄せ金具	Vol.1 2016年3月1日 Vol.2 2016年10月3日 Vol.3 2016年10月27日 Vol.4 2017年9月21日 Vol.5 2018年2月18日 Vol.6 2018年7月1日